

# yawaragi

やわらぎ

第17号

2014

学習院女子大学だより



和  
やわらぎ

## CONTENTS

President's Message	3	学長挨拶
Special Lecture by the Crown Prince	4	皇太子殿下特別講義 「オックスフォード大学留学体験記」
ITCL presents Romeo and Juliet	5	英国劇団ITCL「ロミオとジュリエット」学習院女子大学公演
Japan in the World	6	特集 世界の中の日本 世界の中の日本文学 世界の中での日本農業
Art Management Seminar	10	アートマネジメント教育への取り組み2014
Gakushuin Women's College Institute of International Studies	12	2014年度における国際学研究所 (GIIS) の取り組み
International Symposium	13	国際シンポジウム グローバル化における女子高等教育の役割 — 日本とサウジアラビアの事例から
Special Lectures	14	2014年度 特別授業の紹介
GWC Scholarly Meeting	16	学習院女子大学学会より 「武家服飾の展開 — 徳川家康所用の服飾類を中心に —」 「銃社会アメリカとその文学について」
New Faculty	18	新任専任教員紹介
Academic Conference Held on Campus Visiting Research Fellow	19	本学で開催された学会・研究会 2014年度 客員研究員受入一覧
Faculty Publications	20	専任教員著書の紹介
From the Library	21	図書館からのお知らせ
International Students at GWC	22	留学生報告
Report from China	24	海外留学報告
International Student Activities	25	留学生行事 留学生日本文化芸術鑑賞・体験 ～歌舞伎～ 留学生学外研修授業 ～高尾山・うどん打ち&マイ箸作り体験～ 国際交流会 ～七夕の夕べ～
Study Abroad	26	留学情報
Extracurricular Activities	27	輔仁会団体紹介
Miyabi Festival	28	雅祭を終えて
Yawaragi Festival	29	「和祭」を振り返って
Graduating Seniors' Employment	30	学習院女子大学の就職力
Voice of Perspective Employees	31	内定者からの声
From the Career Support Division	32	キャリア支援部からのお知らせ
From the Parents' Association	33	学習院父母会の近況報告
From the Sojokai Alumnae Association	34	草上会からのお知らせ
GWC Data	36	学習院女子大学データ
Academic Calendar	37	平成27年度 学年暦
Information from GWC	38	Topics

# 「しゃべる」のではなく「話す」



学習院女子大学長  
石澤 靖治

「しゃべる」ことと「話す」こと——「見、同じようなこと」に思えますが、私が考える定義では両者はかなり異なります。まず「しゃべる」ことについて。このことを行うためには、あまり頭を使う必要がありません。相手がいて、その相手と気の向くままに短いフレーズをやりとりすることで済む場合が多く、だからこそ長い時間をそのことに費やしてしまうこともしばしばです。

一方、「話す」には、相手に理解してもらうために、きちんとした論理というか話の筋が必要で、そのためしっかりとした内容と構成にしなければなりません。したがって頭を使います。長い間「話す」ことも大変です。そして私は日本人が不得意なのはこの「話す」

という行為であり、これから日本人は「話す」ことを、より積極的にやっていくべきだと考えています。

以前に比べれば、日本では外国人との接点も増え、外国人と家庭を築く日本人も増えました。しかしながら、その比率が他の先進国に比べて、低いことには変わりありません。そのことによるメリットもデメリットもあります。私はここで、その状態についての是非を言及するわけではありません。言いたいことは、そのような状況が、日本人が日常的に「しゃべる」ことを行っているにしても、「話す」ことが苦手な現象を形成しているのではないということです。前述のようなことから、日本は等質性が高い社会です。したがって身内同士でのコミュニケーションが多く、見知らぬ人にきちんと説明するという必要性が相対的に少ない。つまり「しゃべる」機会が多いものの、「話す」機会は多くないということです。

それはコミュニケーションにおいて、コストがからない（面倒が少ない）という利点があります。しかしながら、相手に対して論理的に説明する能力が育ちにくいということも意味します。また「話す」能力が社会で必ずしも高い

評価を受けないという状況もあります。

私がなぜそのようなことを書くかという点、そのことが国際社会において日本を不利な状況に陥らせていると考えるからです。グローバル化というと必ず英語力が話題になりますが、同時に重要なのは、自分で考えを自分の言葉で、はっきりと説明できる能力です。社会は日々複雑さを増しています。その中で自らの立場や考えを、他人や他国にしっかりと説明する必要性は急速に大きくなっています。そんな中で、いくら英語という言葉がうまくなくても、「しゃべる」だけの英語はグローバル人材として、それほど意味をもちません。英語で「話す」能力が必要なのです。その反対に日本語できちんと「話す」ことができる人は、英語力の不足をカバーすることができますし、勉強すれば英語力も急速に向上するでしょう。

アメリカは英語の国ですが、あの国では人前でしっかりと「話す」ことが格好いいことであり、その人の能力を判断するための基準にもなっています。日本語であれ英語であれ、自分をきちんと話して表現できる、格好いい人間になつてみたいと思いませんか。



## オックスフォード大学留学体験記

皇太子殿下の第11回目となる特別講義が1月21日午後1時から2時30分まで222教室で行われました。「オックスフォード大学留学体験記」と題され、学生、大学院生及び教職員をあわせて約160名が受講しました。

冒頭、殿下は、これまで約50か国を旅し、それぞれの国で様々な経験をすることができたことを紹介され、特に、当時4歳だった殿下が1964年の東京オリンピックで海外と出会い、世界には本当にいろいろな人々がいると印象深く感じられたことや、小学校4年生だった1970年に大阪万国博覧会で海外と初めて触れあわれた思い出、14歳の1974年にオーストラリアで体験された海外生活を振り返られ、海外との交流が人生にもたらす意義を強調されました。

「オックスフォード大学留学」については、13世紀半ばまでには始まったとされる大学の歴史やコレッジ(学寮)とファカルティー(学部)で構成される複雑な大学組織などの概要を説明された後、「教育制度―テネントリアル制度―」「年間行事」「クラブ活動」「オックスフォードでの生活」を、1983年から85年の留学での体験を交え、ご自身でお撮りになられたお写真も織り込みながら詳細に紹介されました。語られるエピソードの随所には、日英文化比較の深い洞察と人々の生活への温かい眼差しが込められ、また創立以来の伝統を大切に、時代の流れに沿いながらもその精神を継承しているオックスフォード大学が、海外の学生を受け入れ、様々な

分野の交流を通して人に会える機会を与えてくださり、それにより内側からイギリス社会を知り、世界を知り、日本を知ることができたことに対する感謝のお言葉からは、ご留学がいかに印象深く大きなご体験であったかが偲ばれました。

まとめでは、昨年の山形ご訪問で、明治11年(1878年)にイギリスの女性旅行作家イザベラ・バードが逗留した金山町を訪ねられたことにお触れになり、バードが『日本奥地紀行』に記した金山町の風景描写と、ご自身で撮影された金山町の風景写真を示されながら、テレビやインターネットでは知り得ないことがあり、旅は新しい出会いや新しい発見を与えてくれると指摘され、海外に出ることで日本を見直すことの大切さを強調されました。最後に、『モンゴメリ』赤毛のアンの「…曲がり角をまがったさきになにがあるのかは、わからないの。でも、きつといちばんよいものにはがないと思うの」との文章を紹介して、希望を持って、未知なる世界へ羽ばたいてほしいと、ご講義を締めくくられました。

この度のご講義はご体験を中心に語られましたが、殿下の思索は奥深く、国と国との関係だけではなく、人と人、心と心の交流にまで思いを寄せられ、出会いを大切にされるご姿勢を実感させるものでした。国際文化交流をひとり一人の生き方にまで結び付けて考えさせる意義深いご講義であったと思います。

(国際コミュニケーション学科 教授 畠山圭二)

本学の国際文化交流事業の一つである英国劇団ITCLによるシェイクスピア劇公演が、2014年5月24日(土)午後4時半より、本学やわらぎホールにて行われました。ITCLの本学公演は2007年秋の「動物農場(A Animal Farm)」から始まり、8年目を迎える今年の演目は「ロミオとジュリエット(Romeo and Juliet)」でした。この作品は2009年の本学公演に続く2回目の上演でしたが、演出こそ同じポール・ステビンクスによるものですが、キャストリングが今回すべて新メンバーとなり、しかもロミオ役が黒人のNaty Jonesということでもかなりユニークな舞台が期待されました。

ちなみに海外ではロミオ役が黒人俳優というのは決して珍しいことではありませんし、筆者が敬愛する英国俳優ケネス・ブラナーの監督する喜劇「お気に召すまま」では、ロザリンドに恋する若者オーランドは黒人俳優David Oyelowoで兄オリバー役がAdrian Lester、また同じブラナーの主演する「から騒ぎ」ではドン・ペドロ役でDenzel Washingtonが出演しています。ただロミオ役にNatyのような黒人俳優を今回起用することで、実はモンタギュー家とキャピュレット家の不和がこれまでの多くの舞台や映画に描かれてきた「白人社

会の中」だけで描かれてきたものとは異なり、沙翁作品の解釈および上演においてもグローバル化が進んでいるようにも思われました。折しもNHK朝ドラ「花子とアン」でも女学生たちがこの恋人たちを演じており、タイムリーな上演でした。

英国劇団の本学公演は、当日劇団を受け入れるための広報活動や公演当日の会場設営から観客の誘導まで、劇場スタッフのほとんどの役割を、ゼミ生を中心とした有志の学生たちが分担して行います。舞台終了後は、学生たちと劇団俳優らによる交流タイムも設けられ、学生たちは拙いながらも堂々と英語で役者たちにさまざまな質問をしたり、と学内に居ながらにして、学生と劇団員らによる「国際交流」というもう一つの立派な「舞台」が生み出されています。今後ますますこの催しが学習院全体で「演劇」という良質の教材を提供する場として評価されることが期待されます。

2015年度の公演演目は「ヴェニス商人(The Merchant of Venice)」が決定しており(5月23日(土))、より多くの学生の皆さんがこの芝居を観て、生の舞台のすばらしさに感激してもらえれば幸いです。

(国際コミュニケーション学科 教授 古庄信)

ITCLによる「ロミオとジュリエット」の1シーン



英国劇団ITCL

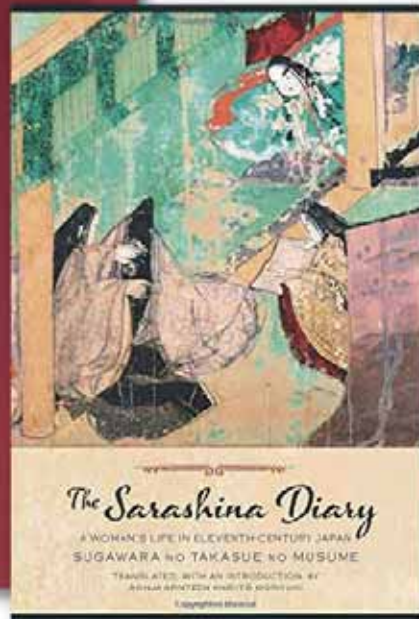
# 「ロミオとジュリエット」

学習院女子大学公演

特集..世界の中の日本

# 世界の中の 日本文学

日本文学化学科教授 伊藤守幸



上写真について

著書名:『The Sarashina Diary ; a woman's life in eleventh-century Japan』

著者:学習院女子大学 国際文化交流学部 日本文学化学科 教授 伊藤守幸(共訳[英訳])

出版社:Columbia University Press 発行日:2014.7

かつて「世界文学全集」「日本文学全集」の類が、陸続として出版された時代がありました。半世紀ほど前の話です。その当時はまた、日本文学の注釈書全集の刊行も相次いでいます。その後、文学をめぐる状況は「変し、世界文学全集が編まれることも稀になったのですが、二十世紀も押し詰まった時期に、週刊朝日百科が大規模な「世界の文学」シリーズを企画し、筆者の許にも「蜻蛉日記」に関する執筆依頼が舞い込みました。二十世紀末にそんな企画が立てられたことにも驚きましたが、「世界の文学」からの執筆依頼が、「蜻蛉日記」に関するものだったという点にも驚かされました。世紀の境をまたいで刊行を重ねた「世界の文学」全百冊のうち、日本文学に関係する号数は二十冊に及んでいました。世界文学全集と日本文学全集の内容の重複など考えられなかった半世紀前の状況と比べると、世界文学と日本文学の関係性に向けられる研究者の視点は、明らかに変化していたのです。「世界文学」の内容そのものも、ヨーロッパや北米大陸に偏ることなく、アフリカ、西アジア、オセアニア、中南米といった地球上のあらゆる地域に目配りしたものとなっています。

ところで、「世界の文学」シリーズが日本文学を包摂したと言っても、担当項目の執筆に当たって、「世界の中の『蜻蛉日記』」に留意するようにといった指針が示されたわけではありません。多くの執筆者は、「世界の中の日本文学」という問題を意識することもなく書き進めたはずで、す。「世界の文学」と銘打つても、日本の読者に向

けて日本語で執筆する以上、視点が内向きになるのは避けがたいことでした。しかし、ひとたび日本の外に出れば、そこには「世界文学」としての「日本文学」とでも呼ぶしかない「日本文学」が、確実に存在します。極端な言い方をすれば、それは日本語で読まれることもなければ、日本語で論じられることもない「日本文学」です。筆者がそうした「日本文学」と直接向き合うことになったのは、二〇〇六年のことでした。

実は先述した「世界の文学」の原稿を執筆した直後、筆者は国際交流基金の派遣教授としてカイロ大学大学院に赴任しており、原稿の校正作業もエジプトで行ったのですが、カイロ大学では日本語による授業が可能でしたから、あらゆる民族や文物の混淆する迷宮都市カイロに身を置いた半年間、「世界文学」としての「日本文学」の問題は、とりあえず棚上げすることができたのです。しかし、それから六年後、ヨルダン大学の求めに応じて客員教授としてアンマンに向向したとき、受講生は文学部英文学科の学生であり、担当科目名は「世界文学」、その科目で「源氏物語」について英語で教えてほしいというのが相手方の希望だったのです。

英語による授業経験のない人間が、いきなりこんな要求に応じるのは無謀の極みですが、筆者としては、日本語を母語とする日本文学研究が、「源氏物語」を英語で論じる際にどんな困難や違和感に遭遇するかということをもそのまま伝えることによって、自国の文化や文学を客観視する上で、外国語で思考することはどのよう

に役立つのかといった事柄について、学生たちに考える機会を提供したかったのです。

初回の授業では二枚の世界地図を掲示しました。それは日本では普通に用いられる地図で、小学生でも見慣れているものです。しかし、ヨルダンの学生にとつて、日本人がこの地図に示されるような形で世界を認識しているということは、意外な事実として受け止められたようです。なぜなら、その地図は中央に太平洋を配置し、人の住む土地が周縁に押しやられているような代物だったからです。画像の大半を海が占有するこの地図は、日本が島国であるという現実を鮮明に浮かび上がらせます。この世界地図を前にしつつ、簡単な英語を用いて説明したのは、以下のような事柄でした。

ヨルダンは、古来多くの民族と文明の行き交う土地でしたが、総じて中央アジアから西アジアの国々のありようを比喩的に表現するとき、しばしば「交差点」や「十字路」の比喩が用いられます。同様の比喩表現を日本文化に適用する場合には、「袋小路」や「吹き寄せ」がふさわしいかもしれません。そして、この「吹き寄せ」の文化は、政治的・経済的安定が持続する幸運な時代には、世界の文化史に例を見ないほどの優れた熟成を成し遂げています。それが、たとえば平安文学であり、江戸時代の文化なのです。平安時代の四百年を通じて、日本は他国と競争をしなかったし、内戦も限定的なものでしたと語ったとき、受講生の表情に微妙な影が差したように感じたのは、中東情勢を憂慮する筆者

の思い過こしたたのでしょうか。

さて、「世界の中の日本文学」について、話が佳境に差しかかったところで紙幅が尽きてしまいました。以下、本稿と関連する二つの事実を紹介して、結びに代えることとします。二つ目は、この秋（十月上旬）、「世界文学」としての「日本文学」という総合テーマの下、国際研究集会の開催を予定しているというお知らせです。一般来聴も歓迎します。ご興味をお持ちの方は、女子大学のホームページ等で今後の情報をご確認ください。二つ目は、カナダ人の日本古典文学研究者ソーニャ・アンツェン氏と筆者の共著という形で、「更級日記」の解説付き英訳書が刊行されたというお知らせです（『The Sarashina Diary』, Columbia University Press, 2014）。本書の発案者は筆者ですが、実際の執筆に際しては、一貫して対等な協力関係が保たれています。十年近い歳月にわたつて、カナダと日本で、我々は幾度となく膝詰めの議論を重ねて、訳文、注釈、解説を磨き上げました。日本古典文学を正しい形で英語圏に伝えるにはどうすればよいか。本書は、そうした問いに対する一つの答えを示し得たのではないかと思えます。ご興味をお持ちの方は、学習院女子大学図書館にてご確認ください。



# 世界の中での 日本農業

国際コミュニケーション学科教授 莊林 幹太郎

TPP(環太平洋経済協力協定)をはじめとした貿易自由化交渉の中で我が国において常に注目を集める分野の一つが農業です。貿易自由化交渉は基本的には協定締結国間でのほとんどの貿易品についての関税をゼロにすることを重要な目的としています。我が国が輸入品に課している関税は鉱工業製品についてはすでに低い水準にあります。これに対して、コメなどの一部農産物については極めて高率の関税が維持されており、それらの農産物を関税引き下げ対象品から除外することが日本政府の交渉事項となることが常態となっています。このことが、農業が貿易自由化交渉において注目を集める所以です。

このようなことから日本は農産物輸入に対して極めて消極的というイメージを持たれるかも

しませんが、低い食料自給率が示す通り、日本は農産物輸入大国でもあります。それを数字で確認してみましょう。2011年の我が国の農産物輸入総額はドル換算で685億ドルとなっており、これを上回る国は米国(1071億ドル)、中国(951億ドル)とドイツ(950億ドル)しかありません。その結果、水産物もあわせた食料の消費額は2013年度で15兆1200億円であったのに対して、国内生産額は9兆8567億円にとどまり、金額ベースでの自給率は65%となっています(内訳は図1参照)。なお、カロリーベースで見た自給率は39%。日本はやみくもに農産物の関税引き下げに抵抗してきたわけではないのです。実際、たとえば生鮮野菜の多くはすでに関税率は3%にすぎません。

写真 滋賀県の農村風景(若林謙氏撮影)



貿易の観点で日本を特徴づけるもう一つの要素は、大量の輸入に比べて輸出額が極めて少ない点にあります。輸入が多いのだから輸出は当然小さいだろうと思われるかもしれませんが、しかしながら、農産物に関しては多くの国でそれは当てはまりません。自国が相対的に「不得手」(「比較劣位」とする農産物を輸入する一方で、相対的に「得手」(「比較優位」とする農産物を積極的に輸出している国)は多いのです。たとえば、日本を上回る輸入をしている米国、中国、ドイツの2011年におけるそれぞれの輸出量は1399億ドル、423億ドル、803億ドルとなっていました。輸入量から輸出量を引いた純輸入量で見ると、米国は328億ドルの輸出超過、中国は528億ドルの純輸入、ドイツは147億ドルの純輸入となります。これに対して日本の輸出額は33億ドルにすぎず652億ドルの純輸入となっています。しかも、輸出額のうち最大のものは真珠であり、「食料」ではありません。

このように多くの国が、農産物生産に関して「得意」(輸出)と「不得手」(輸入)があるのに対して、日本は「不得手」が多く、「得手」が少ないのです。では具体的にどの農産物が「得手」でどの農産物が「不得手」なのでしょう。それを見るのにさきほどの自給率は必ずしも有効ではありません。自給率が低い農産物は「不得手」の傾向にあると言えますが、高い自給率を持つ農産物が「得手」とは言い切れないからです。それは、高い自給率が、高い関税率や国内補助金によって達成されている場合があるから



です。そこで、OECDによって算出されている農業保護の程度を表す指標であるPSE (Producer Support Estimate: 生産者支持推定量)のうち、関税を中心とした価格支持によって国内農業生産が保護されている割合を見ましましょう。図2は、我が国の主な農産物の国内生産額と、そのうち価格支持によって支えられていると推計される金額の対比を示したものです。TPP交渉で日本が関税引き下げの対象外としようとしているコメは、自給率は高いものの価格支持の割合が極めて大きいことがわかります。同様に関税引き下げの対象外を目指している牛肉・豚肉、乳製品などは自給率が小さくまた国内生産についても価格支持効果が大きくなっています。これに対して、野菜は低い関税率の中で比較的堅調な自給率を維持しており、少なくとも「不得手」ではないことがわかります。では、なぜこれらの「不得手」な農産物の国内生産を維持しなければならないと考えられているのでしょうか？その根本にあるのは食料安全保障と農業の多面的機能です。前者については、輸入が何らかの理由で閉ざされたときに、国内農業生産の割合が低ければ食料安全保障上のポジションが悪化するとするものです。後者の多面的機能は、国内農業生産は、農産物のみならずさまざまな公共財的便益を社会に対して供給しており、それらの機能のことを示します(写真)。たとえば、雨水を水田に「一時的に貯留することによる下流の洪水防止機能や地下水涵養機能、農地および農作物が醸し出す伝統的な

農村景観、農地土壌の有する炭素吸収機能(温室効果ガスの低減に貢献します)などが多面的機能の代表的なものです。輸入の増加により国内農業生産が縮小すると、それとともに供給されているこれらの多面的機能も喪失する、それは国民の経済厚生を貿易自由化がかえって毀損する可能性がある、それが多面的機能を理由とした農業保護の正当化に関する一般的な根拠です。このような考え方は日本だけのものではなく、程度の差はあれ他の多くの先進諸国にも共通に見られるものです。しかしながら、私自身が深く関わったOECDにおける多面的機能に関する政策分析は、食料安全保障や多面的機能を理由とする国内生産支持が正当化されるためには、いくつかの条件が満足される必要があるとしています。その中でも最も重要な条件が、食料安全保障機能や多面的機能が本当に国内農業生産に強く「結合」しているかです。もし結合が弱ければ、これらの機能は国内農産物生産から「切り離して」供給し、食料は安価な輸入品を調達することがその国の経済厚生を最大化します。我が国が自由貿易システムから多くの経済的恩恵を受けてきたことを考えると、自由貿易と衝突するような保護政策を採用するとしても、その必要性や意義について突き詰めた検証を行う必要があります(庄林ら(2014))。そして、そのようなプロセスを経ることによって、日本農業の向かうべき方向についての国民的な議論が成熟するのではないかと考えます。

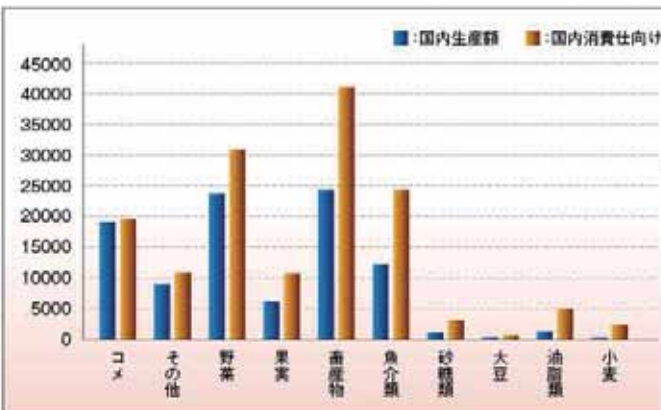


図1 食料の国内生産額と消費額 (億円)  
出典:農林水産省資料をもとに筆者作成



出典:OECDのPSEデータベースをもとに筆者作成

参考文献  
庄林幹太郎・木村伸吾、「農業直接支払いの概念と政策設計」、農林統計協会

# アートマネジメント 教育への取り組み2014

学習院女子大学では学部、大学院を通じてアートマネジメント教育に取り組んでいます。

昨年の「アートマネジメント国際セミナー」では世界各地から合計23名のアートマネジメントの専門家を招聘し、セミナーとシンポジウムを開催しました。本学の学生が企画運営に携わり、ともに国際的な専門家に直接接する機会となりました。一線で活躍する学芸員、美術評論家をはじめとする専門家も多く参加し熱気をおびた議論が展開されました。

本年もまた「アートマネジメント国際セミナー」をはじめとするアートマネジメント教育を実施しました。昨年のセミナーは美術館問題を中心に行いましたが本年は枠を広げ、アートマネジメントのさまざまな側面を取り上げることとなりました。

まず6月にはニューヨークからマイケル・フィンドレー氏を迎え、「アートマネジメント国際セミナー2014」として「アートの価値」について講演いただきました。フィンドレー氏は半世紀にわたり国際的アートビジネスに携わって来た専門家として多くの経験からアートが魂の糧であり心を豊かにするものであることを説き、アートマネジメントの意義そのものを問う貴重な講演となりました。

続いて10月から11月にかけて銀座4丁目のビルで行われた展覧会「THE MIRROR」において「アートマネジメント国際セミナー2014」を開催しました。

セミナーは、企業による文化芸術支援について



「メセナ、きのう・きょう・あす」、「東京における企業ギャラリーの役割と今後の発展について」、「ミゼオロジーについて（1989年・レオナルド・フジタ展と大地の魔術師展からはじめる）」、「アートプロジェクトについて（震災とアート 桜3・11学校プロジェクト）」、そして非営利のアート活動について（ドリームハウスから考えるアートと働き方）の合計5回実施しました。

「震災とアート 桜3・11学校プロジェクト」は本学学生も東日本大震災の翌年から参加しているアートプロジェクトです。美術館外で行われるアートプロジェクトは近年ますます盛んになっており、アートマネジメントの重要な要素となってい



## Art Management

アートマネジメント教育への取り組み 2014

す。このたびの二連のセミナーは企業の文化芸術支援、アートプロジェクトの拡充など、アートマネジメントの領域が拡張されつつあることを認識する機会となりました。これらのセミナーの運営には本学学生も参加しました。

展覧会「THE MIRROR」は昨年のセミナーで議論されたこれからの美術館のあり方を反映した展覧会であり、さらに6月のフィンドレー氏による講演の影響も受けた展覧会でした。文化庁長官も視察に訪れるなど行政関係者からも高い関心を集めました。

『アートマネジメント国際セミナー2014』で学んだことの実践として、11月から12月にかけて本学で展覧会「オリンピックの美 東京・札幌・長野」を開催しました。本展覧会は大学院でアートマネジメントを学ぶ学生と学芸員課程の博物館実習を学ぶ学部学生が企画運営にあたりました。

大学院の学生は春学期から本学教授で日本オリンピックアカデミー専務理事の荒井啓子教授の指導を受けて準備にあたりました。秩父宮記念スポーツ博物館の協力のもと、東京オリンピックをはじめとして日本で開催されたオリンピックのグラフィックを担当したクリエイターに焦点をあてた展覧会となりました。

会場は本学の文化交流ギャラリーとともに隣接する教室の二部を使い、グラフィックデザイナー

の栗谷川健二、亀倉雄策などのオリジナルポスターを中心に展示しました。作品借用時の調書の作成、展示作業、撤去作業など展覧会にかかわる作業を通じ、展覧会の実施を学びました。さらに大学院生は教育普及事業としてギャラリートークを実施しました。

こうした実践を通じて、マーケティング、広報、企画のたて方などさまざまな側面から展覧会のマネジメントの実際を学び、問題点を検証することで、マネジメントの基本について理解を深めることができました。

学習院女子大学でアートマネジメントを学んだ卒業生は現在、行政の文化担当、公共ホールの企画担当、博物館美術館の学芸員、企業の文化担当、非営利アートのスペースの運営、文化関連の出版などに携わっています。本年のセミナーが示したように、アートは美術館に限らずさまざまな場所で行われるようになりました。これからも卒業生が活躍する機会が増えることを期待します。

また学芸員、フリーランス・キュレーター、アートプロジェクト・コーディネーターなどの専門家、行政担当者こうした専門性の高いセミナーへの関心があることが昨年から経験でわかりました。今後こうしたセミナーを開催し、本学学生のみならず学外にも提供して行くことが望まれます。

(日本文化学科教授 清水敏男)

# 2014年度における 国際学研究所(GIIS)の取り組み

国際学研究所副所長／国際コミュニケーション学科 准教授 羅 京洙



第1回 GIISセミナー

開、そして地域的アイデンティティ形成の可能性などについて多様かつ高水準の分析を報告しました。また、日本・韓国・中国・台湾出身の4名の(留)学生が、留学を實際に経験し、それに対す

学習院女子大学国際学研究所(GIIS)は、学習院国際交流基金の海外機関交流研究事業として2012年から実施してきた東アジア大学間学術交流事業の第5回国際ワークショップを、2014年7月に本学で開催しました。今回の国際ワークショップは、「東アジア地域の留学生移動：『頭脳流出』から『頭脳還流』へ」というテーマで行われましたが、当日は多くの学者や外部の方々、学生のあわせて140余名が参加するなど、高い関心が寄せられました。(東)アジアを単位とした地域統合に関する議論が活発に行われている中、教育(特に高等教育)分野における国際化と地域化現象において、その実質的な主体となっている「留学生」という存在に関する学術的な議論はきわめて重要であり、時宜にかなったものであると思います。具体的には、日本・韓国・中国出身の5名の専門家が東アジア地域における留学生の移動に関する現状、政策的展開、そして地域的アイデンティティ形成の可能性などについて多様かつ高水準の分析を報告しました。また、

る認識を持っている「当事者」としての率直な声を発表しました。

また、第6回国際ワークショップは、2015年2月に韓国・ソウルで開催されました。「東アジア地域研究と『資料』学知共有の可能性を探る」というテーマで、2013年に本研究所と学術協定を結んだ高麗大学並細重問題研究所との共催で行われました。本学からは、根占献一教授、岩淵令治教授、木村直恵准教授、羅京洙准教授の4名がソウルを訪問し、それぞれ研究報告や討論などを通して韓国側の研究者たちと知的交流を深めました。

さらに、本研究所は、人文学・社会科学に関わる国際学研究に関する研究成果と知見を学内外に幅広く広げて共有するため、各分野の研究者・専門家を招いて開催する「GIISセミナー」をスタートさせました。2014年11月に開催された「第1回 GIISセミナー」では、本研究所客員研究員のレイチエル・K・スタウム氏(米国・コロンビア大学大学院博士課程)を講師としてお招きし、「国際的な観点からお伽草子：昔話を考える」「浦島太郎」を中心に「というテーマの研究成果が報告されました。日本のお伽草子や昔話は国際的な観点からどう見られ、欧米の知識人によってどのように翻訳、解釈、再生、出版されたのか、などを中心に質疑応答と議論が活発に交わされました。



第5回 東アジア大学間学術交流 国際ワークショップ





女子大学2号館 やわらぎホール



オープニング  
イサム・ブカーリ氏  
(サウジアラビア王国大使館文化部長文化アタシェ)の挨拶

か、あるいは「仕事を持つ  
から働く」か2つの選択肢  
から選ぶという発想の間  
題点が挙げられ、バネリ  
ストからは、「二極化しな  
い女性の生き方がもっと  
も望ましい」との意見が  
出されました。  
結婚するののかしないの  
か、出産するののかしないの  
かという議論がナンセン  
スになるような意識改革

2014年6月6日(金)、学習院女子大  
学(本学)とサウジアラビア王国のプリンセス・  
ヌーラ・アブドゥッラハマーン女子大学との共  
催による国際シンポジウム「グローバル化にお  
ける女子高等教育の役割―日本とサウジア  
ラビアの事例から」が延べ約500名におよ  
ぶ国内外の参加者の下、本学のやわらぎホー  
ルにて開催されました。  
女子大学の在り方や研究・教育などにつ  
いてのテーマを3つのセッションに分け、英語  
もしくは日本語による講演およびバネル  
ディスカッションが同時通訳を介し行われま  
した。約7時間にわたり熱心な議論が展開  
されました。

マ・アルクナイビット副学長、昭和女子大学  
坂東真理子学長が基調講演を行いました。  
セッション2では、東京国際大学の塩尻和子  
特命教授を中心に、本学のミス・ウーゴ准  
教授をはじめ、プリンセス・ヌーラ大学、慶応  
義塾大学から6人の女性研究者が登場、  
「大学における女性の研究と教育」について  
話し合われました。  
セッション3では、「サウジアラビアと日本の  
女子大学間における協力について」をテーマ  
に、バネルディスカッションが行われました。  
バネリストとして、本学より石澤靖治  
学長、今橋理子教授、プリンセス・ヌーラ大学  
よりマ・アルクナイビット副学長、ハヤ・アル  
マズルーウ学会運営理事長が登場、本学の  
高山圭教授がモデレーターを務めました。  
この中で、現代の女性の生き方として、さ  
まざまな社会要因から「家庭に専念する」



セッション2



セッション3

が必要であり、女性が「その人らしく生き  
る」ことの選択肢を増やす、そのためにも、  
すべての女性に質の高い教育が施されるべき  
であるとの話がありました。  
石澤学長は、サウジアラビアと日本の女子  
大学間における協力について、「日本の皇室  
とサウジアラビア王室とは緊密な関係にあ  
り、そのつながりから今回のシンポジウムを  
開催する運びとなった。今後お互いに刺激  
を受けながら理解を深めていきたい」と述べ  
ました。

# 国際シンポジウムを 開催しました

## グローバル化における女子高等教育の役割 ―日本とサウジアラビアの事例から



# 2014年度 特別授業の紹介

## 日本文化学科

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
五感を通して、食の大切さと価値を学ぶ	高石 知枝	ゆいの家 主宰	4月25日	3限	日本文化演習・ⅡⅢ、 国際コミュニケーション演習Ⅰ・ⅡⅣ	品川明
日本酒を知る	遊佐 勇人	人気酒造株式会社 代表取締役	5月15日	4限	比較文化論Ⅵ(嗜好)	中野美季
台湾茶 発酵の違いを知る	沈 南翰	中国文化大学講師(生活茶芸) / 奇古堂(台湾茶、茶器などの美術ギャラリー) 社長	5月21日	4限	比較生活文化論Ⅰ (地域食文化論)	磯部幸子
近代日本における言理学校と社会・文化について	木下 知威	日本社会事業大学非常勤講師 博士(工学)	6月3日	2限	近代文化論Ⅰ	木村直恵
江戸小紋 一現代に生きる伝統の技一	小宮 康正	染色家、伝統工芸士、日本工芸会会員	7月4日	3限	日本生活文化史Ⅰ(衣文化)	福島雅子
オリンピックとメディア 一メディアが伝えるオリンピックの裏側一	藤原 庸介	公益財団法人日本オリンピック委員会 理事	7月7日	4限	現代文化論Ⅶ [スポーツ文化論]	荒井啓子
現代演劇としての歌舞伎	坂東 新悟	歌舞伎俳優	10月14日	4限	身体文化Ⅱ(現代演劇)	尼ヶ崎彬
友禪染 一その技と伝統の継承一	瀬藤 貴史	伝統工芸士 桜美林大学総合文化学群講師	11月7日	3限	日本生活文化史Ⅱ(衣文化)	福島雅子
若者集団と社会化 一イベサーのしくみとギャル・ギャル男の生活実態一	荒井 悠介	一橋大学大学院社会学研究科 博士後期課程/ 日本学術振興会 特別研究員(DC2)/明星大学非常勤講師	11月28日	5限	現代生活論Ⅳ (個人と集団)	寺地幹人

## 国際コミュニケーション学科・英語コミュニケーション学科

人材会社から見る労働傾向	山下 健祐	アデコ株式会社 アウトソーシング事業本部 部長	5月20日	4限	英語コミュニケーション演習・ⅡE / 国際コミュニケーション演習・ⅡS	C.ウィン
--------------	-------	----------------------------	-------	----	--	-------

### 共通科目

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
実務法曹への道一法科大学院と新司法試験一	今井 秀智 / 大曾 和子 / 石田 山美子	國學院大学法科大学院教授(弁護士) / 東京開智法律事務所弁護士 / 東京開智法律事務所分館士	6月9日	3限	法学Ⅰ	櫻井大三
銀行員にとっての民法とは一民法実践講座一	小林 朝弘	三井住友信託銀行株式会社 新宿西口支店 次長	11月17日	3限	法学Ⅱ	櫻井大三
国際交流とオリンピック 一国際政治・外交の視点から一	望月 敏夫	元駐ギリシャ大使 2016及び2020東京五輪招致委員会委員	11月24日	4限	生活環境論Ⅱ [ウエルネス論]	荒井啓子

### 学芸員課程

彫刻について	渡辺 元佳	アーティスト	5月10日	3限	博物館実習ⅠA	清水敏男
博物館における資料撮影及び 写真の保存・活用	勝田 雷	国立歴史民俗博物館管理部 博物館事業課専門職員	11月17日	3限	博物館資料論	松田睦彦

### 国際文化交流研究科

クーベルタンの思いと芸術装束: 2020年東京大会への示唆	舛本 直文	首都大学東京 大学教育センター 教授	7月9日	4限	現代文化演習B	荒井啓子
東洋文庫 一日本が世界に誇るアジア研究の殿堂一	牧野 元紀	公益財団法人東洋文庫普及展示部 主幹研究員	10月7日	3限	比較文化論ⅠA	根占献一
「文人たちの結社」 一「百科全書」における(societe des gens de lettres)の概念	逸見 龍生	新潟大学人文学部 准教授	12月6日	2限	比較文化演習ⅡA	根占献一

## 国際コミュニケーション学科

テーマ	講師名	職名	日時	時間	授業名	担当教員
フランス革命とユダヤ人	清水 領	フランス社会科学高等研究院 研究員	5月27日	2限	フランス文化論I	工藤晶人
南アフリカにおける援助活動とNGO	津山 直子	特定非営利活動法人アフリカ日本協議会	6月24日	2限	国際開発論I	伊藤由紀子
韓国社会の「日本認識」	金 鐘泰	高麗大学校亜細亜問題研究所 研究教授	7月15日	5限	国際コミュニケーション 演習IK・IIIK	羅京洙
企業経営におけるビッグデータの活用と市場動向 ～Chasmへの挑戦	杉本 幸	日本テラデータ株式会社	11月19日	3限	マーケティングII	江口泰広
音楽から振り返るチェコの歴史と文化	森下 嘉之	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 助教	12月19日	3限	東欧文化論	中島崇文
「バレエにおける『ロミオとジュリエット』の世界」	木村 恵子	神戸女子大学文学部英語英米文学科 教授	11月24日	5限	国際コミュニケーション 演習III O/MO	古庄信
なぜNPO法人かーせたがや子育てネットの事例ー	松田 妙子	特定非営利活動法人せたがや子育てネット 代表理事	12月2日	2限	ボランティア論I	伊藤由紀子
国家の周縁で ーイタリア＝オーストリア国境における「国民」とはー	鈴木 珠美	東京外国語大学 海外事情研究所 特別フェロー	12月8日	3限	地域研究基礎論II	中島崇文
ウードの調べとイスラム文化	常味 裕司	ウード演奏家	12月9日	3限	イスラム文化論II	小野仁美
米国公文書の英文解釈と沖縄現代史研究	堀川 輝之	公益財団沖縄文化振興会公文書管理課 主任専門員	12月15日	5限	外国語演習IM	櫻井大三
スーダン社会の構成と障害者の状況 ー私の経験を通してー	ヒシャム・エルセル・ ビラル・サリー	筑波大学大学院人間総合科学研究科 障害科専攻 博士課程後期	12月17日	4限	アフリカ文化論	津山直子
ドイツ音楽におけるコメーション(記念行事)と古楽器復興 ーバッハ、ヘンデル、ハイデル、メンデルスゾーンを中心にー	松本 彰	新潟大学 名誉教授	12月18日	1限	ヨーロッパ文化論	板占誠一

## 通信回線ネットワークによる同時授業

2012年9月から、学外と通信回線ネットワークでつなぎ、同時授業を行うプロジェクトがスタートしています。大学間の学年暦や時間割の違いに加え、海外の大学とは時差という課題もありますが、遠隔地にいる者同士が互いを近く感じる貴重な経験となっています。2014年度は、次のとおり同時授業を開講しました。

## 海外大学との同時授業

2014年度秋学期は、協定校であるレスブリッジ大学(カナダ)との同時授業を、双方の教員が交互に授業を行うジョイント形式で開講しました。本学側の履修者14名には外国籍の学生もいて、まさに国際的な雰囲気で行われました。レスブリッジ大学との同時授業は2015年度以降も継続する予定です。



レスブリッジ大学との授業風景

## タイトル・内容

## Japan and International Relations

日本とカナダ、アメリカおよび東南アジア諸国との国際関係を、国際政治、国際経済、社会史の研究の講読等により考察

## 担当教員(役職)

Gideon Fujiwara (レスブリッジ大学教授)  
石澤靖治 (本学学長)

## 国内大学との同時授業

2014年度秋学期は、神戸女学院大学(兵庫県西宮市)と、同時授業を行いました。本学側の履修者23名のうち1名は学習院大学の学生で、実に3大学の学生により、リアルタイムに意見交換や討論が行われ、システムの魅力を実感することができました。



授業開始を祝し神戸女学院大学の飯学長と本学石澤学長がバーチャル握手

## タイトル・内容

## 国際コミュニケーション論

マスメディアが日米関係にどのような影響を与えたか、また、ベトナム戦争、湾岸戦争、イラク戦争、ボスニア紛争などの事例を通じ、紛争とマスメディアの関係を、政権の広報という観点から考察

## 担当教員(役職)

石澤靖治 (本学学長)

## 武家服飾の展開

### — 徳川家康所用の服飾類を中心に —

2014年10月30日

日本文学学科 准教授  
福島 雅子



徳川家康(一五四二—一六〇六)は、江戸幕府の初代将軍として二六〇年余にわたる徳川政権の基礎を築き、江戸時代を通じて政治的権威の根源となった人物として知られています。しかし、徳川家康が七十五年の生涯の中で着用または所用したとされる服飾類が、今日まで数多く伝世していることはあまり知られていません。このように、中世末から近世初期の服飾品の多くが朽損をまぬがれ、まともな形で伝世す

ることは極めて稀であり、これらの服飾類を検討することにより、江戸時代を通じて規範となった武家服飾形式の源が解明されることが期待されています。

現存する徳川家康所用服飾類のうち、最初期の作例と考えられる東京国立博物館所蔵の「白紫段練緯地葵紋散模様陣羽織」は、徳川家康より前島祐徳が拝領したと伝える墨書銘を備えています。本品品については発見当初から不詳な点が多くありましたが、ここでは、作品調査等の検討結果に基づいて、服飾史上の位置付けを再検討したいと思います。

まず、伝来を示す墨書の墨書銘については、これまで長く不詳とされてきましたが、本作品が伝世

したとされる旧高田藩領(現新潟県上越市)における現地調査を実施した結果、拝領者である前島祐徳の家系について検証が進み、本作品が天正十年(一五八二)六月二日に起こった本能寺の変直後のいわゆる「伊賀越え」において、家康を背負って山越えをした臣下の前島祐徳に下賜されたものであるとの伝承を新たに指摘することができました。

次に、陣羽織の形態について分析すると、随所に桃山時代において南蛮貿易により舶載された南蛮服飾の影響が指摘でき、十六世紀の時代性を備えていることがわかります。また、羽織という現状の形態は制作当初に想定されたものではなく、意匠が施された段階では小袖として制作されていたことがわかります。さらに、縫い紋りと描繪を併用し、摺箔を加えた技法の分析からは、桃山時代に盛行した辻が花染の特徴を具備していることが指摘できます。

以上のような考察の結果から、これまで徳川家康所用という伝来から十七世紀であろうとされてきた本作品の制作時期は、桃山時代前期、つまり十六世紀に求めることができると結論づけることができます。さらに小袖として制作されたことが考えられる本作品の葵紋散らしの意匠は、近世初期の武家の小袖に施される家紋の定型化を知る上でも、その最初期の形式を示す非常に重要な作例として位置付けることができます。

このように、四百年以上前に制作された服飾類についても、ひとつひとつの遺品を丁寧に分析し検討を重ねることで、制作時期の有する特徴や制作者の意図までも解明することが可能となるのです。



「白紫段練緯地葵紋散模様陣羽織」 東京国立博物館



## 銃社会アメリカと その文学について

2014年10月30日  
学習院女子大学 名誉教授  
米山 益巳



アメリカにおける銃の歴史は古く、先住民との争いが絶えなかった植民地時代から始まります。清教徒達の日曜礼拝が先住民を警戒して、銃を持った男達のいわば護衛付きであったことを示している、そんな絵画も残されています。そもそも銃なくして独立戦争もありえませんでした。銃を保有、携行する権利を認めた「米國憲法修正第二條」(二七九)の成立も、そのことと

無縁のことではありません。ともあれ、銃なるものは人類史上における一大発明品です。暴力の極みをいとも容易に演じてしまうのですから。リンカーンをはじめとして四名の大統領の命を奪い、「夢」を語ったキング牧師を三九歳の若さで死に追いやつたのも、これ全てその「卓越」した「能力」の故です。そのような銃による死者が、実に年間数百万人に及ぶ国、それがアメリカという国です。

く一九二〇年代にまで遡れます。かくある社会を色濃く映し出したものとして、ハリウッドの映画があることはつとに知られている通りですが、文学の世界も例外でなく、銃は多様な意味を放

ちながら物語の構築にあずかっています。誤って、愛する一人息子を射ち殺してしまう父親の「罪」と「罰」を描いたホーソンの『ロジャー・マウインの埋葬』(二八三)も、あまたの人物が銃弾を浴びて死体と化しているトウエインの『ハックルベリー・フィンの冒険』(二八四)も、ハックの飲んだくれの父親も、因果応報よろしくその「角を占めるに至ります。命こそ奪われてはいませんが、あのトム・ソーヤですら「ふくらば」に銃弾を撃ち込まれている始末です。「三〇年」もの間敵対している「二族」の「少年」に発砲され、撃ち返すべく銃を構えて狙いを定めることまではしたものの、遂に引き金を引くことなく去ってゆくハーニー・シェパードソンのその所作が、意義深く浮上してくる所以です。黒人へのリンチを扱った「南部」の作家フォークナーの『乾燥の九月』(九三三)『首謀者』の手にした拳銃は、どこやら罪意識をも漂わせています。小男のジョージが、知的障害を負った大男レニーの後頭部に、銃口を向けて死に至ら

ではなく、遠器運動は今に始まったことではなく、遠く一九二〇年代にまで遡れます。かくある社会を色濃く映し出したものとして、ハリウッドの映画があることはつとに知られている通りですが、文学の世界も例外でなく、銃は多様な意味を放



しめるスタインベックの『二十日鼠と人間』(九三七)の「ルーガー銃」には、溢れんばかりの哀れみと、そして愛情が込められています。マラマッドの『アシスタント』(九五七)では、かつて悪事を働いた若者フランク・アルバインの変貌を跡付ける大切な一つのディテイルとして、銃が下水溝に投げ捨てられます。ほんの数例を、それもいささか粗略な形で挙げたにすぎないのですが、銃文化に根差した「種稀有なるその文学のありよう」の一端を知るには、これだけでも恐らく十分ではないでしょうか。

私の専門は、日本染織史・服飾史です。主に博物館や美術館などに所蔵される近世以前の現存する染織・服飾品、および関連する史料などを研究対象としています。

「染織」と「服飾」の違いについてはあまり知られていませんが、まず「染織」とは、布を染めることと織ること、すなわち「染物と織物」であり、英語の *textile* にあたる言葉です。それに対して「服飾」は、「衣服と装身具」であり、人が身につける物を指し、英語の *costume* にあたります。したがって、「染織史」は服飾類のみならず調度品・仏教法具・茶道具などを含む染織品全てが研究の対象となるのに対して、「服飾史」は、主に衣服と装身具を対象とした研究が主流となります。私は、主に日本の近世以前の服飾品も含めた染織品全般を研究対象としており、専門分野としては「染織史」および「服飾史」の両方があてはまるといえます。

継続的に実施し、近世の武家服飾に関する研究に取り組んでいます。また、無形文化財としての染織技術の調査・研究として、文化庁が行った重要無形文化財保持者（人間国宝）を中心とした染織技術に関する現状調査に参加したことは、伝統的な染織文化の直面している状況を知る上で、大変意義深いものとなりました。さらに、染織文化財に対する復元的研究としては、江戸時代の友禅染の技法に関する復元的研究を実施し、海外に向けて研究成果を発信することも行っています。

日本文学学科 准教授  
**福島 雅子**  
(ふくしま まさこ)



略歴  
東京芸術大学大学院美術研究科美術学研究領域博士課程修了。博士(美術)。東京芸術大学美術学部教育研究助手、獨協大学講師等を経て、2014年より本学の准教授。  
主な著書は「江戸のきものと衣食生活」(小学館)、「日本史色彩事典」(吉川弘文館)、「中国文化史大事典」(大修館書店)など。

伝統の継承と革新を繰り返しながら、現代まで引き継がれている日本の染織文化について、これからも多様なアプローチから研究に取り組んでいきたいと思っています。

## 福島雅子准教授が 美術史学会『美術史』 論文賞受賞

日本文学学科福島雅子准教授が、第67回美術史学会全国大会において、平成25年度『美術史』論文賞を受賞しました。論文賞は、美術史学会の学会誌『美術史』に採択・掲載された該当年度の全ての論文を対象として、特に顕著な成果を取め、斯学の発展に寄与したと認められるものを顕彰するものです。

受賞論文は、次のとおりです。

東京国立博物館所蔵

「白紫段練緯地葵紋散模様陣羽織」について  
—制作時期と形態の再検討を中心に—  
〔美術史〕第173冊、平成24年10月

詳細は美術史学会ホームページをご参照ください。  
<http://www.bijutsusushi.jp/c-ronbunshou.htm>

## JICA主催 「グローバル教育コンクール2014」に 6年連続 入賞

独立行政法人国際協力機構(JICA)主催の「グローバル教育コンクール」において、学習院女子大学が「団体奨励賞」を授与されました。

同コンクールには2014年度の中欧国際協力研修の参加者及び昨夏にルワンダを訪れた学生が応募しておりましたが、今回はラオス国際協力研修参加者も応募に加わっており、そのことも大きかったようです。

本学は同コンクールに6年連続で応募し、いずれも入賞しています。これは、本学の快挙であり、他には全く例のないものです。

受賞者・受賞団体一覧はJICA地球ひろばのホームページからご覧ください。

[http://www.jica.go.jp/hiroba/menu/global\\_edu/](http://www.jica.go.jp/hiroba/menu/global_edu/)

なお、上記のページの右上の「模擬授業」の箇所をクリックすると、2013年10月6日に日比谷公園で開催された「グローバル・フェスタ2013」の中の「グローバル教育コンクール2013ワークショップ」において、2012年度の中欧国際協力研修に参加した国際コミュニケーション学科3年の2名が登壇し、積極的に発言している動画が今も掲載されています。こちらの方もあわせてご覧ください。

# 本学で開催された学会・研究会 2014.4.1~2015.3.31



団体名	責任者	会名称・内容	日時	参加人数
伝承文学研究会	徳田 和夫	研究例会 公開講演会	月例会9回 12月6日	各20名 50名
古事記学会	神田 典城	研究会	4月19日 9月20日 11月22日 12月20日 3月14日	各50名
関東日本語談話会	佐藤 琢三	研究発表会	7月12日 9月6日 11月1日	各30名
仏教文学会	徳田 和夫	学会	9月20日 9月21日	各50名
ルネサンス研究会	根占 献一	学会	7月12日	50名
国際服飾学会	木村 直恵	第26回国際服飾学術会議	8月20日 8月21日	150名
日本マナーマイスター学会	岩崎 光洋	学会総会・発表会	10月25日 10月26日	90名
科学研究費助成事業	根占 献一	国際学術会 研究発表	7月19日 7月20日 12月22日	80名 20名
幕藩研究会	岩瀬 令治	研究会大会	9月13日	60名
日本語/日本語教育研究会	佐藤 琢三	研究大会	9月28日	100名
日本オリンピックアカデミー	荒井 啓子	JOAセッション 研究会	11月30日 1月24日	130名 100名

## 2014年度 客員研究員受入一覧

氏名	所属	研究テーマ	受入部署	共同研究者	受入開始	受入終了
舩本 直文	首都大学東京 大学教育センター 教授	オリンピック・レガシー(遺産)としての文化プログラム 及び平和運動に関する研究	日本文化学科	荒井 啓子	5月1日	1月31日
木村 恵子	神戸女子大学 文学部英米文学科 教授	中世寺社縁起絵巻の翻訳研究及び 絵解き説法の海外における受容研究	国際コミュニケーション学科	古庄 信	4月30日	3月31日
Rachel K. Staum	米国・コロンビア大学 大学院博士課程	日本文学における女性・異界・お伽草子	国際学研究所	徳田 和夫	9月1日	8月31日
猶川 景子	学習院女子大学 非常勤講師	アジア地域におけるコモンスと サブシステムの歴史社会学的研究	国際コミュニケーション学科	石澤 靖治	4月1日	(2015) 3月31日
坂本 邦輔	オランダ・ナイメーヘン大学 哲学史・科学史研究所 研究員	西欧と戦国日本における靈魂の不滅性の問題	国際コミュニケーション学科	根占 献一	7月17日	7月29日

## 専任教員著書の紹介

2014.1.1~2014.12.31

### RDA (Resource Description & Access): 資源の記述とアクセス—理念と実践

教授 越塚 美加 [共訳]  
樹村房 2014.10



2013年度「学習院外国人招聘事業」により招聘したBarbara Tillett氏が本学で開催した講習会のテキストの翻訳。「RDA」はさまざまな情報資源を記述する規則として国際的に図書館内外で普及しつつあり、その考え方を学ぶためのテキストである。

### 「江戸」の発見と商品化:大正期における 三越の流行創出と消費文化

歴博フォーラム:民俗展示の新構築Ⅴ  
教授 岩淵 令治 [共編著]  
岩田書院 2014.3



大正期の三越百貨店が創出した「江戸趣味」を事例に、商品化による近世都市江戸と江戸時代の文化のイメージの形成と受容を検討した。編者が代表の国立歴史民俗博物館共同研究の成果の一つである。

### 農業直接支払いの概念と政策設計

—我が国農政の目的に応じた  
直接支払い政策の確立に向けて—  
教授 荏林 幹太郎 [共編著]



農林統計協会 2014.2

我が国における直接支払い政策の本格的転換を前に、本政策の国際的政策議論に多大な影響を与えているOECDの分析概要や規範的教訓を明示し、そこから得られる政策的示唆についてOECD現職と元職により論じられた政策書である。

### 江戸・京都・大阪の三都物語

新発見!日本の歴史30 江戸時代3  
教授 岩淵 令治 [編著]  
朝日新聞出版 2014.2



一般向けの歴史シリーズの一作。江戸時代の三都についての概説をこころがけつつ、とくに江戸については江戸賞美論について、考古学の研究成果もふまえ、多様な角度から警鐘を鳴らした。

### TOEFL®テスト フレーズで覚える英単語

准教授 萱 忠義 [共編著]  
学研教育出版 2014.6



留学に必要なTOEFL®テスト対策用の英単語学習書。200万語のコーパスに基づき、4,200語をコンピュータ上で厳選。英語レベルと出題分野を考慮し、学習者に分かりやすく単語を提示・解説。

### 図説 絵とあらすじでわかる! 日本の昔話

[青春新書INTELLIGENCE]  
教授 徳田 和夫 [著]  
青春出版社 2014.1



現代まで語り継がれてきた昔話・伝説の数々の文化史的な意義を、民間説話学・民俗学・比較文化の面から解説。また、15~17世紀の短編物語=お伽草子作品・絵巻の内、民間伝承を題材とした作品を選んで紹介する。

### BBCやさしい英語と映像で学ぶ総合英語 BBC World Profile on DVD

准教授 萱 忠義  
専任講師 高橋 礼子 [共編著]  
教授 Cuong Huynh  
南雲堂 2014.1



BBCドキュメンタリーで総合的な英語運用能力向上を目指すフルカラーDVD教材。BBCドキュメンタリーより、知的好奇心を刺激し、教材としての内容が充実したクリップを選出。ナレーションを英語・米語で収録。

### 古典講読 お伽草子

[セミナーブックス・セレクション]  
教授 徳田 和夫 [著]  
岩波書店 2014.2



日本が世界に誇るべき物語文化の中に、15~17世紀のお伽草子類がある。本書は、その多様な全体像と、ビジュアル・カルチャーとしての特質を解説し、庶民物語の「小男の草子」、英雄物語の「弁慶物語」を多角的に講読する。

# 図書館からの from the Library おしらせ



## ブック・セレクターの活躍について

「ブック・セレクター」とは、毎年出版される数多くの本の中から、「自分が読んでみたい本」、「友達に読んでもらいたい本」、「あったらいいなと思う本」という視点で図書館に所蔵する本を選ぶ学生のことです。多くの大学図書館では「学生選書委員」と呼ば

れており、本学も平成23年度の開始時は同様の名称でしたが、昨年度から「ブック・セレクター」に改めました。今年度は16名（1年生3名、2年生4名、3年生6名、4年生2名、修士2年生1名）のセレクターで活動しています。

### ■ブック・セレクト・ツアー

セレクターの大切な役割に「ブック・セレクト・ツアー」への参加があります。他大学では「選書ツアー」とも呼ばれ、セレクターが書店において図書館の蔵書を直接選ぶことができる毎年好評の図書館主催行事です。平成26年度のツアーは6月21日（土）と10月25日（土）に新宿の大型書店にて開催しました。各回ともセレクターは書店の全フロアを2時間かけて回り、和洋合わせて498冊（2回の合計）の図書と9本のDVD（6月ツアーのみ）を選んでくれました。「自分の読みたい本だけを選ぶのではなく、多くの学生に興味を持って読んでもらえる本を選ぶよう心がけた」、「自分が普段読まないジャンルの本も積極的に選ぶようにした」、「大学生に役立つ内容の本（就活や資格など）を意識して選んだ」、「普段本を読まない学生でも興味を引くタイトルや装丁の本を中心に選んだ」など選書についての考えを聞くことができ、ツアーに対するセレクターの意識の高さに感心させられました。



### ■ブックトーク

ツアー終了後はセレクター全員で「ブックトーク」を行いました。ブックトークとは、「本の内容について簡潔に語るることによって、聞き手自身が読書の楽しみに気づき、読書意欲をおこすようにすること」を目的としています。今回のブックトークでは、本の内容について語るのではなく、「なぜ自分はこの本を選んだのか」、「なぜ選んだ本を他の学生に薦めたいのか」、その理由について1分から3分程度の時間、図書を片手に語ってもらいました。今回のブックトークの主旨を理解し、ていねいに言葉を選びながら語るセレクターや、自身の思いを一気に語るセレクターなど、活気のあるブックトークが展開されました。ブックトーク終了後には「自分では見つけられなかったいろいろな本を知ることができて楽しかった」という感想の一方、「選んだ本の魅力を短い時間で伝えるのは難しかった」などの感想もありましたが、セレクター全員で楽しい時間を過ごすことができましたようです。



1) 竹内悠、「ブックトーク」、日本大百科全書 (Japan Knowledge Lib). ネットアドバンス、<http://japanknowledge.com/>. (参照 2015-02-23).

### ■POP (ポップ) の作成

ツアーで購入した本は、セレクター自身が選書した中から「POP」を3枚（3冊分）書いてもらいました。POPとは文章やイラストなどを用いて本の魅力を紹介するカードのことです。セレクターは「一目で興味を持ってもらえるような言葉を書いたり、ポップを見て、読んでみようと思ってもらえるものを作るように意識した」、「色やイラストなどを本の雰囲気にあったものにする」と、文字の大きさ・形・色で変化をつけて、見やすいポップになるように工夫した、「作品の雰囲気が伝わるようなポップを目指した。その作品に最も合う一言（キャッチフレーズ）を大切にしたい」、「本の内容が気になるような、目を引くコピーを考えた」など、個性が発揮されたすばらしいPOPを作成してくれました。

16名のセレクターが作成したPOPはセレクトした本とともに「学生選書コーナー」に展示されています。セレクターの活躍によって貸出冊数も多く、館内でも人気のコーナーです。皆さんぜひご利用ください。





協定留学生 (バラツキー大学)  
**Glaslova, Marketa**  
グラスロヴァー マルケータ (チェコ)

子どもの頃から、アニメとドラマの影響を受け、日本の文化と社会に興味を持っていました。私にとって、日本への留学は夢をかなえることができても嬉しかったです。そうは言っても、小さいチェコから急に大きくて混んでいる東京に行くのはとても怖かったです。文化や習慣はとも違っていたり、言葉も通じなかったり、天気もとても暑かったりと、いろいろな問題がありました。しかし、国際交流推進センターのみなさんが助けてくれて、寂しく感じた時は、他の留学生やサポーターを務めている優しい日本人の学生と一緒に旅行や、カラオケ、ダンス、テランドに行ったりしてくれました。一人で日本に来たのに、寂しくも怖くもありませんでした。

寂しさを感じなかったもう一つの理由は、学習院大学の応援団吹奏楽部に所属したことでした。10歳のころからフルートを吹いていたので、日本に来て絶対続けようと思っていました。自分の楽器をチェ



コから持ってきて、学校が始まる前から、すぐ音楽の部活を探しました。「和祭」で吹奏楽部の演奏をみて、心が奪われるほどのすてきな演奏だったので、すぐ入ろうと思いましたが、最初は言葉が通じず、日本独特のマナーや先輩後輩関係もよく分かりませんでした。春と夏に合宿に行ったり、学習院の試合を応援したり、定期演奏会にも出たりしたおかげで、だんだん慣れて、とても楽しい時間になりました。厳しいけれど、かっこいい応援団と可愛いチアリーダー部と一緒にス

テージに上がって交流できたおかげで、日本に来てから初めて外国人ではなくて、日本人として部活の一員になった気がしました。

部活の100人のメンバー、学校みんなを好きになり、まだ日本でやりたいことがたくさんあったので、私は元々の二年間の留学を半年延長しました。そのおかげで、旅行や部活などの楽しいことをますますできただけではなく、バラツキー大学での卒業論文の「狂言について」の研究もきちんとできました。一年半がすぎても、まだまだ帰りたくないと思っています。このような素晴らしい留学をできたのはとてもありがたいことです。これからまた何回も日本に戻って来たいと思っています。学習院女子大学のみなさん、ありがとうございました！





## 日本文化学科 4年 MOHD AWEE ANISA BINTI モハマド アウイ アニサ ビンティ (マレーシア)

2009年から初め、今年は日本での滞在が5年目になりましたが、半分以上の期間は学習院女子大学で過ごしました。4年間もこの大学で過ごし、当然ながら喜びも悲しみも、さまざまな出来事がありました。かけがえのない思い出と出会いが得られました。

入学した時から今まで、たくさんの日本人の友達ができ、その中にはとても仲の良い友人もいます。楽しい出来事も嫌な出来事も、彼女と共に乗り越えました。彼女のおかげで、より楽しい大学生活を送ることができました。その他に、国際交流推進センターのスタッフの方々との出会いも私にとっては大切なものでした。センターに訪ねるたびに、明るい笑顔で「お元気ですか?」と話しかけられたり、勉強や課題の進み具合などについて聞いてくださるので、とても温かく感じます。優しいスタッフのおかげで、元気をもらえました。

4年間この大学に通い続け、最も興味深い授業といえば、佐藤琢三先生のゼミです。日本語のみならず、言語学全体に関する授業でもあるので、言語にとっても関心のある私にとってはびったりな授業だと思います。授業内容も当然ですが、それぞれの学生の研究テーマに

ついての発表を聞くことによって、今まで自分が全く関心のない、あるいは気付いていないある言語の現象も多少理解することができるようで、毎週とても楽しく授業を受けています。

私にとって最も忘れないのはロータリー米山奨学生として選ばれたことです。奨学生として選ばれることによって、私の留学生活も大きく変わってきました。経済面での支援は当然ですが、それだけではなく、カウンセラーというその奨学会ならではの制度のおかげで、自分の母のような存在であるカウンセラーが常に私の傍にいてくださり、悩みや寂しさもだんだんなくなってきました。食事から旅行まで、カウンセラーはいつも私を誘ってくださるので、今まで体験したことのないことや見たことのない日本もいろいろと体験できるようになりまし

た。また、他の奨学生と一緒に遠足やディスカッションな

どをする機会もたくさん設けられるため、異国出身の留学生とも仲良くなり、出会いも増えました。そして、カウンセラーや他のロータリアンの方々からの応援があるからこそ、私は今より充実した大学生活を送ることができました。

もし私がこの大学に入学しなければ、きっとこのようなすてきな出来事が起きなかったと思います。学習院女子大学の学生であるからこそ、私は充実した大学生活を送ることができました。





田中さん  
写真左から2番目



## 国際コミュニケーション学科 4年 田中 碧風

私は2013年9月から2014年6月まで、中国の清華大学に協定留学しました。清華大学は北京に所在する総合大学であり、国家重点大学に指定されています。そのため、在籍する学生は努力家で勉強熱心な人ばかりです。清華大学での留学で一番良かったことは、こうした在校生からの良い刺激を受けられたことでした。

協定留学中は人文社会科学学院に在籍し、在校生と同じ講義を受講していました。私の履修した講義はすべて中国語によって行われるものであったため、留学開始当初は講義についていけず、悔しい思いをしました。しかし、それでも粘り強く勉強を続けた結果、留学終盤には授業内容が留学開始時と比較して大幅に理解できるようになり、講義に参加するたびに自らの中国語能力の高まりを実感できるようになりました。

清華大学での留学中に最も印象に残った講義は「日本研究」でした。この講義は、日本の文化や歴史、そして現代日本の状況などを解説するものでしたが、日本人の私から見ると、中国から見た日本の歴史や文化の捉え方の違いは非常に興味深いものでした。そして、講



義を通して歴史の知識を深めることの重要性を感じ、このことは帰国後に卒業論文を執筆するうえで大きなエネルギーとなりました。

また、留学中は積極的に行動することを目標としていたため、インターシップやフォーラムのスタッフなど、さまざまな活動に参加しました。その中でも特にビジネスコンテスト主催サークルでの思い出は印象深いものでした。サークル参加直後は初級レベルの中国語しか話せなかったにも関わらず、まわりはほぼ全員中国人学生であったため、参加当初は意思の疎通ができません、私がいかに何をしました。しかし、私が理解できず困っているたび

に、周囲の友達が一歩中国語に言い換えてくれたり、中国語単語の意味を教えてくださいと協力をしてくれ、国境を越えた友情に感動しました。

協定留学での期間は一年にも満たない短い期間ではありましたが、留学生活を通して経験したことは数えられないほどであり、もちろん辛いことや悔しいこともありましたが、帰国後数か月経った今思えば、留学生活はかけがえのない貴重な時間でした。この留学期間で得たさまざまな経験は、今後の人生での大きな財産になると考えています。







## 留学生日本文化芸能鑑賞・体験

### ～歌舞伎～

2014年6月7日(土)観会館からの助成金により、歌舞伎鑑賞教室に参加しました。「歌舞伎の見かた」と題して、わかりやすく歌舞伎やその演出方法などについての解説があり、その後演目「ちいさん ばあさん」を鑑賞しました。



日本の伝統文化について来日前から興味を持っていた留学生も多く、ポーランドの留学生からは「歌舞伎は重要な日本の伝統文化の

一つである」と教えていたので、日本へ行ったから歌舞伎の舞台を見に行きたいと思っていました。見る機会があり、とても嬉しかったです。(中略)歌舞伎の本番の演劇を見に行かせていただき、感謝しています。」との声が寄せられました。

これからの社会において日本の伝統文化を理解し、世界にその真髄にある精神を伝えていくことはとても重要な事であり、留学生や日本人学生両者にとって貴重な体験となりました。



## 留学生学外研修授業

### ～高尾山・うどん打ち&マイ著作り体験～

観会館芸術・伝統文化講座(留学生学外研修授業)として本年度は10月12日(日)に秋の高尾山ハイキング、うどん打ち・マイ著作り体験を実施しました。

都心から少し足を延ばすだけで、季節が少し早まる高尾山。バス旅行では毎回自然の中で留学生同士、教職員が親睦を図る事を目的とし、今回はずどんの打ち方や、箸の作り方を地元の方々に教えていただきながらその土地ならではの良さに触れました。自分で作ったうどんと、田舎野菜の天ぷらを食し、手作りのお箸を手にしながら、キャンパスでは見られない笑顔をほころばせていました。

これをきっかけに、留学生が日本を知りたいという探究心を更に向上させ、日本への興味や理解を深めてもらう機会となったこととしよう。



## 国際交流会

### ～七夕の夕べ～

7月10日(木)毎年恒例の「国際交流会(七夕の夕べ)」を開催しました。今回は外国人舞踊大会に出場した留学生3人に日本舞踊の披露をしてもらい、また参加者みんなで輪になり、思い思いの浴衣に身を包みながらBONDANCE(盆踊り)をしました。



留学期間を終えて帰国する留学生の送別を兼ねた国際交流会では、来当初とは比べ物にならない流暢な日本語で入すつスピーチをしてもらいました。毎年かぐや

姫を月に見送るような気持ちで、その成長や日々の思い出を振り返りながら、また再会できることを祈っています。

留学生がこれから日本と世界との架け橋となり、今後一層交流が盛んになることを期待しています。



## 留学制度について

本学在学中に留学するには、以下の3つの方法があります。

1. 協定留学: 学内選考を経て、協定校に留学すること。
2. 私費留学: 自分自身で留学先を選び、本学の許可を受けた上で留学すること。
3. その他: 本学を休学して、海外の語学学校・専門学校などへ留学すること。(夏休みなどの長期休暇を利用して留学する場合には休学する必要はない。)

区分	留学期間	単位認定	学費	留学手続
協定留学	原則1年 / 在籍年数に算入	認定可	本学学費全額納入 協定校学費免除	国際交流推進センターと共同で行う
私費留学	原則1年 / 在籍年数に算入	認定可	在籍科相当額納入 留学先学費は自費	本人が行う
その他	休学期間は在籍年数に算入されない	認定不可	在籍科相当額納入 留学先学費は自費	本人が行う

## 協定留学について

### 1. 協定留学とは

本学では、現在13の国・地域17校の大学と交換留学協定を締結しています。この17校の協定大学へ、学内の選考を経た上、本学より推薦を受けて派遣されることを協定留学と言います。募集は原則毎年1回です。

### 2. 学生交換プログラムのある協定大学一覧 (平成27年2月現在)

国・地域名	大学名/所在地	相互交換数 <sup>※1</sup>	語学力 <sup>※2</sup>	授業料等納付金
アメリカ	ミズウリ南部州立大学 ジュプリン/ミズウリ	受入 6 / 派遣 5	TOEFL iBT 80点以上	派遣先=免除 本学=全額納付
カナダ	ノザンブリティッシュコロンビア大学 プリンスジョージ/ブリティッシュコロンビア	受入 0 / 派遣 1	TOEFL iBT 80点以上	派遣先=免除 本学=全額納付
	レスブリッジ大学 レスブリッジ	受入 0 / 派遣 3	TOEFL iBT 80点以上	派遣先=免除 本学=全額納付
イギリス	リーズ大学 リーズ	受入 40 / 派遣 30	IELTS 6.0 (Overall) 以上 セクション毎のスコア: RS.5 LS.5 SS.5 WS.5以上	派遣先=免除 本学=全額納付
ドイツ	ハンブルク大学 ハンブルク	受入 39 / 派遣 9	ゲーテ・インスティテュート・ ドイツ語検定B1レベル以上 またはドイツ語検定試験3級以上	派遣先=免除 本学=全額納付
	ミュンヘン大学 ミュンヘン	受入 17 / 派遣 16	ゲーテ・インスティテュート・ ドイツ語検定B1レベル以上 またはドイツ語検定試験3級以上	派遣先=免除 本学=全額納付
エストニア	タリン大学 タリン	受入 19 / 派遣 14	TOEFL iBT 57点以上 セクション毎のスコア: R8 L13 S19 W17以上	派遣先=免除 本学=全額納付
ポーランド	ワルシャワ大学 ワルシャワ	受入 28 / 派遣 30	TOEFL iBT 57点以上	派遣先=免除 本学=全額納付
チェコ	ハラツキー大学 オロモウツ	受入 43 / 派遣 17	TOEFL iBT 57点以上	派遣先=免除 本学=全額納付
ルーマニア	ブカレスト大学 ブカレスト	受入 24 / 派遣 10	TOEFL iBT 57点以上	派遣先=免除 本学=全額納付
中国	清華大学 北京	受入 3 / 派遣 2	中国語検定試験 (HSK) 5級以上	派遣先=免除 本学=全額納付
台湾	高雄大学 高雄	受入 0 / 派遣 0	中国語検定試験 (HSK) 3級以上 または中国語検定試験3級以上	派遣先=免除 本学=全額納付
	静宜大学 台中	受入 1 / 派遣 0	中国語検定試験 (HSK) 3級以上 または中国語検定試験3級以上	派遣先=免除 本学=全額納付
韓国	誠信女子大学 ソウル	受入 22 / 派遣 10	一般韓国語能力試験 (S-TOPIK) 中級以上 またはハングル能力検定試験4級以上	派遣先=免除 本学=全額納付
	梨花女子大学 ソウル	受入 0 / 派遣 1	一般韓国語能力試験 (S-TOPIK) 中級以上 またはハングル能力検定試験3級以上	派遣先=免除 本学=全額納付
ラオス	ラオス国立大学 ビエンチャン	受入 4 / 派遣 0	TOEFL iBT 57点以上	派遣先=免除 本学=全額納付
オーストラリア	メルボルン大学 メルボルン/ヴィクトリア	受入 7 / 派遣 3	TOEFL iBT 79点以上 セクション毎のスコア: R19 L19 S19 W21以上	派遣先=免除 本学=全額納付

※1 相互交換数は協定締結日から平成27年2月現在の数値となります。 ※2 R=Reading, L=Listening, S=Speaking, W=Writing

## 国籍別留学生 受人数

OCT 1, 2014

国籍	国籍別人数
中国	21
韓国	12
台湾	2
香港	1
マレーシア	1
ドイツ	4
イギリス	2
チェコ	2
スロヴァキア	1
ポーランド	2
ベトナム	2
インドネシア	1
ラオス	1
エストニア	2
ルーマニア	2
アメリカ	2
合計	58
私費	37
協定	19
国費	2

## 本学学生 派遣数

OCT 1, 2014

国	人数
アメリカ	8
オーストラリア	1
カナダ	4
チェコ	2
ドイツ	3
ポーランド	2
韓国	3
合計	23
協定	15
私費	8

JASSOの日本人学生留学状況調査に基づき、平成26年4月1日以降に留学を開始した学生数をカウントしています。

注① 平成20年3月31日以前から継続している留学は含みません。  
注② 英での半セスター留学および短期留学研修は含みません。

## 留学説明会について

留学に興味のある方は、留学説明会に出席してください。第1回は6月上旬、第2回は10月上旬に開催を予定しています。日時の詳細は、国際交流推進センター掲示板をご確認ください。



## 箏曲部

Koto Music



ごきげんよう。  
私たちが箏曲部は毎週金曜日に箏曲生田流の先生をお招きして、ご指導を受けながらお稽古に励んでいます。普段のお稽古では、「六段の調」、「千鳥の曲」、「春の海」などお正月で良く耳にする古典的な曲から、現代邦楽までジャンルにとらわれず、さまざまな曲を弾いています。最近では「ジブリメドレー」、「アイズニメドレー」、「千本桜」などポピュラーソングにも挑戦しています。また、課題曲のお稽古でお免状を取得することもでき、部員の励みとなっています。



10月の大学祭では、女子短期大学時代から続く伝統の箏曲演奏会を開催しています。二日間

に渡って行われる中、一日目は振袖を着た盛装で演奏をします。日々のお稽古の成果を示す場であり、部員一人ひとりが心を込めて演奏をします。

箏は日本を代表する伝統楽器の一つです。国際交流の場にも生かされています。部員のほとんどは大学に入ってから始めた初心者です。初心者も経験者も自分のペースで練習でき、無理なく楽しんで続けられる部活です。少しでも興味をお持ちいただけましたら、この機会にぜひ、箏を身近に感じていただきたいと思っています。

(日本文化学科3年 作山 玲子)

## ジャズダンス部

Jazz Dance "AQUA"

ごきげんよう。私たちジャズダンス部AQUAは、毎週火曜日と金曜日の週2回、プロのダンスインストラクターであるまつり先生のご指導の下、元気に楽しく活動しています。AQUAでは日々の練習に加え、年間を通して、4月のオール学習院の集いや10月の大学祭をはじめとした、さまざまなイベントに参加しています。また、早大や慶大など全8大学の姉妹サークルと、舞台や年に2回の合同練習会、そして毎年12月に行われる姉妹サークル対抗コンテストなどのイベントを通して、互いに切磋琢磨し合い、交流を深めております。姉妹サークル対抗コンテストでは、AQUAは2013年に優勝、2014年に準優勝をいただきました。

AQUAはとてもアットホームな部活です。ダンスの技術向上に努め、楽しむことはもちろん、信頼できる大切な仲間とともに自分が成長できる場でもあります。部員の中には経験者もおりますが、大学からダンスを始めた初心者も多く、皆ダンスと真剣向き合っています。ダンスに興味がある方、AQUAで充実した大学生活を送ってみませんか？ 部員一同、心よりお待ちしております。



(国際コミュニケーション学科3年 中村 絵梨)



ESS  
部

English Speaking Society



ごきげんよう。ESS部(英語部)は毎週月曜日と金曜日に学習院大学で活動しています。英語部と言っても、ただ英語を話すだけではありません。一年を通して、春は伝える力を鍛える「アスカッション」、夏は論理的思考が必要とされる「ディベート」、秋は表現力の大切な「ドラマ(英語劇)」、冬に即興性の求められる「スピーチ」を行い、英語をさまざまな形で使い、楽しく英語力を身に付けています。



学内での大会や、他大のESS部をお招きする主催大会も多くあり、11月の学習院大学の大学祭では英語劇の公演も行っています。学外の大会にも積極的に参加しており、よりレベルの高い大学と競い合うことで刺激を受け、さらに交友の幅も広げることができています。

また部員同士仲が良く、部の雰囲気がとても良いことが自慢です。時に競い合い、時にはふざけ合える、そんな仲間と過ごすESSでの時間は一生の思い出になります。

英語が苦手な方は多いと思いますが、「話せるようになりたい」という気持ちさえあれば必ず話せるようになります。愉快な仲間と楽しみながら英語を学べる場所、それが私達ESS部です。

(国際コミュニケーション学科3年 松岡由真)

雅祭を終えて

雅祭とは、毎年4月に行われる新入生歓迎祭です。委員会や部活動の紹介の場や、新入生同士の交流の場を設け、新入生のみならず本学の良さや学生生活の楽しみを見つけてもらう機会を提供しています。

昨年度は悪天候により午前部のみの開催となりましたが、今年度は天候にも恵まれ、多くの新入生に参加してもらうことができました。新入生のみならずにより「層楽しんでもらえるよう、今年度はこれまでの反省を活かして会場を変更し、運営を円滑に進められるよう心がけました。緊張して臨んだ雅祭当日でしたが、新入生の笑顔で満たされた和ホールの光景は、今でもはつきりと記憶に残っています。

来場してくれた新入生のみなさんをはじめ、参加してくれた課外活動団体のみなさん、最後までご支援いただきました学生部の方々、共に雅祭を作

雅祭

Miyabi Festival



り上げた委員の仲間たちに心より御礼を申し上げます。そして、雅祭で見つけた友人や所属団体が、新入生のみならずの学生生活の彩りとなることを願っています。

2014雅祭実行委員長  
(日本文化学科3年)  
加藤希美

# 和祭

Yawaragi Festival



魔法をかけ、その魔法が  
大学祭を通して出会った  
方々の心に残る思い出に  
なつてほしいという想いを  
込めておりました。この  
2日間、委員長という立  
場から、たくさんの学習  
院女子大学生の輝いてい  
る姿を見ることができま  
した。さらに和祭を準備  
していくうちに、部署とい

本年度、学習院女子大学  
の大学祭「和祭」は10月18  
日、19日に行われました。天  
候にも恵まれ、例年よりも  
はるかに上回る約1万人の  
方にご来場いただき、大盛況  
のうちに終えることができました。ありがとうございます。  
テーマは「MAGIC」を  
結ぶ愛の魔法」。大学祭  
実行委員だけでなく、大学  
祭で活躍するすべての学習  
院女子大学  
生がおもて  
なしという



感じたことは「出合い」の  
大切さです。委員長とし  
てたくさんの方々に出会  
い、一人ひとりの思いやり  
や心遣いに触れてまいり  
ました。この貴重な出会  
いを忘れずに、自らの人  
間力を高めていきたいと  
考えております。かねて  
からの目標でありました  
「来場されたお客様はも  
ちろんのこと、学習院女  
子大学生も楽しめるよ  
うな大学祭を作り上げ

う隔てを越えた多くの委員同士の交流が  
生まれ、その交流が団結力に変わる瞬間  
に何度も出会うことができました。また  
ご来場いただいた卒業生の方のお手紙か  
らその団結力がお客様にも伝わっていたこ  
とに大変感銘を受けました。  
私は学習院女子大学でしかできないこ  
とをしたい、という気持ちから大学祭実  
行委員会に入りましたが、3年間こうし  
て楽しく活動をし続け、全力で打ち込むこ  
とができたのも、この大学祭実行委員会の  
仲間と出会うことができたからであると  
感じております。私が大学祭を通して一番

る」ために、小さ  
いことながら改  
善をしてまいり  
ました。部室の  
環境改善、大学  
祭に向けてのし  
おり製作、全委  
員のスケジュール  
調整など、些細  
なことではござい  
ましたが、この改  
善に積極的に賛  
成してくれた長、  
委員の心遣いに  
は大変感謝をしております。また和祭を  
盛り上げるために、参加していただきまし  
た学習院女子大学の参加団体の皆様、他  
大学の参加団体の皆様にも改めて御礼申  
し上げます。ありがとうございます。  
最後になりましたが、4月から大学祭  
のためにたくさんの時間をかけてアドバイ  
スをくださり、当日もご尽力くださいまし  
た学生部の皆様、毎回の打ち合わせにご  
参加いただき、貴重なご意見をくださいま  
した教職員の皆様、また協賛企業の皆様、  
OGの先輩方ご父母の皆様にも深く御礼  
申し上げます。ありがとうございました。



## 「和祭」を振り返って

2014年度大学祭実行委員長(国際コミュニケーション学科3年)

神保 藍奈

●就職支援スケジュール(平成26年度実績)

開催月	セミナー内容
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●就職講演会「25年度就職活動報告と26年度就職活動スケジュールについて」</li> <li>●就職対策セミナー「公務員セミナー」</li> <li>●就職対策セミナー「適性・適職テスト」</li> <li>●4年生対象 学内企業説明会</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●就職対策セミナー「インターンシップ説明会」</li> <li>●就職対策セミナー「筆記試験対策講座」</li> <li>●就職対策セミナー「適性・適職テスト結果ガイダンス(自分と仕事の見直し・自己分析講座)」</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●就職対策セミナー「写真撮影・メイクアドバイス講座(アナウンサー等マスコミ対策)」</li> <li>●外務省職員による講演会「国際機関での働き方について」</li> <li>●就職対策セミナー「就職模擬試験(SPI)」</li> <li>●4年生対象 学内企業説明会</li> <li>●パナソニック「新卒者就職応援プロジェクト」説明会・登録会</li> <li>●就職対策セミナー「SPI・筆記試験対策講座(解き方中心)」</li> </ul>
8月	●4年生対象 学内企業説明会
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●就職対策セミナー「アナウンサー試験対策講座」</li> <li>●就職対策セミナー「マスコミ業界選考対策講座」</li> <li>●4年生対象 学内企業説明会</li> <li>●学習院大学法科大学院 説明会</li> <li>●1年生・2年生向け「キャリア診断テスト・ガイダンス」</li> <li>●就職対策セミナー「就職活動報告会・留学生版」</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●就職対策セミナー「業界・企業研究の方法—いい会社・悪い会社の見分け方」</li> <li>●内定者報告会</li> <li>●就職対策セミナー「履歴書の書き方講座」</li> <li>●就職対策セミナー「新聞の読み方と業界選びの考え方」</li> <li>●公務員試験対策 相談会</li> <li>●就職対策セミナー「就職模擬試験(SPI試験・GAB/CAS試験)」</li> <li>●ビデオ上映会「SPI試験対策講座」</li> <li>●就職対策セミナー「メイク・就職写真アドバイス講座」 ①リクルースタイルマナーについて</li> <li>●就職対策セミナー「メイク・就職写真アドバイス講座」 ②スーツの着こなし・身だしなみメイクについて</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●就職対策セミナー「WEBテスト・模擬試験の説明&amp;申込み」</li> <li>●就職対策セミナー「面接時のマナー講座」 (個人面接・グループディスカッション・集団面接対策)</li> <li>●内定者報告会</li> <li>●就職対策セミナー「エントリーシート・履歴書作成のポイント講座」</li> <li>●就職対策セミナー「筆記試験対策講座」</li> <li>●業界研究セミナー①金融(証券・銀行・信用金庫) ②情報通信 ③旅行 ④印刷</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●業界研究セミナー①航空 ②金融(銀行・信託・信託銀行) ③商社(専門・総合)</li> <li>●就職対策セミナー「航空業界志望者対象ES等対策講座」</li> <li>●就職対策セミナー「外資系航空会社セミナー」</li> <li>●就職対策セミナー「写真撮影・メイクアドバイス講座(アナウンサー等マスコミ対策)」</li> <li>●面接対策セミナー(2日間)</li> </ul>
1月	●ハローワーク主催 4年生対象 求人票紹介・就職相談会
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●就職対策セミナー「ES書き方講座」</li> <li>●業界研究セミナー①メーカー ②小売(アパレル・化粧品・百貨店) ③金融(地方銀行・政労系銀行・信用金庫) ④物流 ⑤人材 ⑥航空 ⑦プライダ</li> <li>●就職対策セミナー「OGによるパネルディスカッション」</li> <li>●就職対策セミナー「模擬面接マナー講座」</li> <li>●就職対策セミナー「筆記試験対策講座」</li> <li>●就職対策セミナー「事務適性検査対策講座」</li> </ul>
3月～5月	●学内企業説明会

キャリア支援部のサポート体制

本学のキャリア教育・就職対策セミナーは、全学的に授業がない木曜日5時限目やお昼休みに開催し、学生の負担にならない時間帯や参加しやすい環境を整え、学業と就職活動の両立を助けるようにし、年間約70回を超える就職対策セミナーを開催しています。

# 学習院女子大学の就職力

常に金融・保険業、サービス業を中心に高い就職率を維持しており、マスコミなどの就職ランキングでも何度も上位に取りあげられています。

最近では、サンデー毎日(平成26年8月31日号)「アノ有名企業に強いのは「コノ大学」のメガバンクや航空業界への就職者占有率(※)ランキングにおいて上位にランクインした記事が掲載されました。

各企業への就職者数では、大規模総合大学の陰に隠れてしまっていますが、各企業への占有率でのランキングでは、小規模校の本学が健闘していることがうかがえます。

三菱東京UFJ銀行

順位	大学名	占有率	就職者数
1	○白百合女子大	6.15%	23
2	○学習院女子大	6.03%	21
3	○聖心女子大	4.73%	20
4	○神戸学院大	4.20%	19
5	○清泉女子大	4.17%	15
6	○東京女子大	3.77%	31
7	○学習院大	3.27%	46
8	○フェリス学院大	3.20%	14
9	△一橋大	2.88%	23
10	○日本女子大	2.84%	35

<表の見方>

医科・歯科の単科大学を除く全国717大学に調査。660大学から得た回答(7月末日現在)をもとに、大学全体の就職者数に占める各企業への就職者数の割合が高い大学を掲載した。グループ企業を含む人数の場合もある。  
※占有率(%)とは、就職者総数に占める当該企業への就職者の割合で、「企業別就職者数÷大学全体の就職者数×100」で算出。同率で順位が異なるのは、小数点3ケタ以下の差による。大学名の△印は国立、○印は私立、無印は公立。  
\*印は大学院修了者を含んでいることを表す。企業は日経平均株価指数の採用銘柄や大学生の人気企業ランキングなどを参考に選定した。

三井住友銀行

順位	大学名	占有率	就職者数
1	国際教養大	2.87%	5
2	○学習院女子大	2.87%	10
3	○神戸学院大	2.43%	11
4	○白百合女子大	2.41%	9
5	△一橋大	2.38%	19
6	○聖心女子大	2.36%	10
7	○フェリス学院大	2.29%	10
8	○学習院大	1.92%	27
9	○日本女子大	1.87%	23
10	○関西学院大*	1.57%	70

みずほフィナンシャルグループ

順位	大学名	占有率	就職者数
1	△一橋大	2.76%	22
2	○慶應義塾大*	2.64%	143
3	○学習院女子大	2.30%	8
4	○学習院大	2.06%	29
5	○成蹊大*	1.55%	23
6	兵庫県立大	1.24%	10
7	○立教大	1.23%	43
8	○明治大*	1.19%	69
9	○聖心女子大	1.18%	5
10	○早稲田大*	1.18%	102

全日本空輸(ANA)

順位	大学名	占有率	就職者数
1	○神戸学院大	1.99%	9
2	○聖心女子大	1.89%	8
3	○学習院女子大	1.72%	6
4	○東洋英和女学院大	1.32%	6
5	○関西外国語大	1.18%	23

日本航空(JAL)

順位	大学名	占有率	就職者数
1	○聖心女子大	1.42%	6
2	○神田外語大	1.24%	9
3	○東京女子大	0.97%	8
4	○学習院女子大	0.86%	3
5	○上智大	0.82%	13

本学の上記航空会社への就職者はすべてキャリアアテンダント(CA)での採用。その他に外資系航空会社(CA)や上記グループ会社のグランドスタッフにも多数就職している。  
\*【大学通信調べ】サンデー毎日(2014.8.31号)に掲載した表を抜粋。

企業説明会

採用意欲のある各業界有力企業の人事担当者を招いて、業務内容や採用状況等の説明を聞く学内企業説明会では、6日間にわたり52社の企業が参加しました(平成26年2月実施)。平成26年度は開催日程・参加企業数をさらに充実させて実施します。また学生の就職活動状況に応じて6月～11月にかけて複数回、合同企業説明会も開催し学生と企業との交流の場を設け、双方共に納得のいく採用選考につなげています。

<参加実績企業>

東京海上日動火災保険、日本生命、三菱東京UFJ銀行、みずほフィナンシャルグループ、三井住友銀行、国際興業銀行、日本政策投資銀行、JTB東日本、日本航空、全日本空輸、丸紅、友邦、野村證券、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、新日本製鐵、新日本製鐵エンジニアリング、TAKAMI BRIDAL、ノリウーゼ、SABON Japan、拓明印刷、三菱物産、JTBグループ、JALスカイ、ANAエアポートサービス、ヤマトロジスティクス、特別区人事委員会(東京23区)、豊田、神戸中央法律事務所、他



## 住友商事(株) 内定

平成27年3月 日本文学学科卒業  
M・F

私は他業界のインターンシップに参加していたため、就職活動を始めた当初はその業界ばかり見ていました。しかし面接が本格化する1か月前、本当に自分がやりたい仕事を考えたときに商社、中でも住友商事が第一志望となりました。商社に目を向けるのは遅くなってしまいました。何事でも人より早く行動を起こしていたことが良かったのではないかと思います。

その際、キャリア支援部の方には大変お世話になりました。何度もESの添削や面接対策をしていただき、とても心強かったです。社会人の先輩方や友人も含め、周りの人たちの手を借りることの重要性を感じた就職活動となりました。

就職活動に対しネガティブな印象をお持ちの方もいらっしゃると思いますが、捉え方は人それぞれです。さまざまな情報が飛び交うため難しいかもしれませんが、人は人・自分は自分と割り切ることが大切だと思います。

「就活は始める前より始まってから頑張った人が報われる」私はこの言葉を身をもって痛感しました。ぜひ自分を信じて、最後までやりきってください。応援しています!

## (株)三菱東京UFJ銀行 内定

平成27年3月 国際コミュニケーション学科卒業  
N・S

私は就職活動を始めた当初、やりたいことや働きたい仕事が漠然としていたので、それを明確にするためにさまざまな業界の説明会に参加していました。多くの社員の方の話を聞き、「自分はどのような働き方をしたいのか」、「その会社ではどのような方々が働いているのか」ということに重きを置いて就職活動を進めていきました。

いざ面接が始まると、自分と他人を比較して落ち込むこともあれば、面接に落ちて気持ちが沈むことも多々ありました。ですが、そのような時こそ、ただ悲観的になるのではなく自分自身を見直し、次の面接につなげるようにしていきました。勿論そういった前向きな気持ちにならないこともありますが、そのような時は、キャリア支援部の方や家族、友人からの言葉に何度も励まされ、最後まで頑張ることができました。本当に感謝しています。

就職活動にはこれが正解という方法はありません。最終的にどのような結果になったとしても、後悔が残らないよう自分で考えて行動していけば、きっと良い就職活動になるのではないかと思います。辛い時は周りに力を借りることも忘れず頑張ってください。応援しています。

## ライオン(株) 内定

平成27年3月 国際コミュニケーション学科卒業  
K・S

就職活動は、本当の自分を分かってくれなかったり、言われなかったり、疑問や憤りを含め、辛い時もあると思います。しかし、「面接なんて通らなくて当たり前」と思っていた私は幸運でした。

私は自分の足で50社以上訪問し、所属していた環境ゼミの影響から、最終的に日用品メーカーに興味を持ちました。しかし、採用人数が少ない、大手企業であるという2つの壁の前に立ち、自分なんか絶対通らないと行動できずにいました。そんな中、面接対策セミナーの講師の方から「どうして大きい企業だと受からないの?」と質問され、傷つきたくないがゆえに行動できない自分に気付かされました。

就職活動は自分の弱い部分と向き合うことも必要です。私はそれを認め、「自分はこういう人間です」と堂々としていることが大切だと思います。また、自分が多くの人に支えられていることを忘れないでください。一人でいる時間ばかり作らず、仲間と過ごし、みんなの前向きになってください。私を支えてくださったOB、OG、指導教授、キャリア支援部の方々、両親、友人、そしてライオンの人事の方には心から感謝しています。皆さんも、ぜひ感謝と笑顔を忘れず、頑張ってください!

## 日本航空(株) 内定

平成27年3月 英語コミュニケーション学科卒業  
M・Y

私にとって就職活動は辛い時もありましたが、自分自身を見つめ直す貴重な経験となりました。

当初は、自分のやりたい仕事ははっきり分からず、たくさん悩みました。また、自分の未来に対して不安もありました。そんな私が就職活動で大切にしていたことは、「自分の足で行動し、自分の目で見え納得する」ことです。決して近道ではあいませんでしたが、多くの企業に出会い、たくさんの方々の貴重なお話を伺ううちに、自分の考えがまとまり、徐々に自分のやりたいことが明確になりました。そして、JALのOGにお会いする機会がありお話しに共感したということもあり、JALの客室乗務員になりたいと強く思いました。

面接では毎回緊張しましたが、ありのままの自分を素直に伝えることを意識しました。そのために、面接では面接官の方とも会話を楽しくもうと意識して臨むよう心掛けていました。

就職活動を終えた今、両親をはじめ、友人、キャリア支援部、OB・OGの方、人事部の方々など、多くの方に支えていただいたことに、大変感謝しております。

皆さんも自分を信じて、周りの方々への感謝を持って頑張ってください。応援しています!

# キャリア支援部からのお知らせ

## ●平成26年3月卒(平成25年度)の就職状況について

平成26年3月卒の就職状況は、景況の改善から企業の採用意欲が高まり採用数は増加傾向、積極的な採用姿勢になったため、昨年の97.0%よりも更に高い97.8%という高い就職率になりました。12月1日広報活動開始2年目となったこの年の企業の動向は、前年の選考スケジュールを鑑みた結果か、全体的にやや前倒しのスケジュールとなりました。前年よりも本学を訪問する企業が増え、また学内企業説明会に参加希望の企業が増加し、「採りたい人材は積極的に探りに行く」という企業側の姿勢が感じられたため、本学もその期待に応えるべく、平成25年度の学内企業説明会は日数・社数ともに前年度よりも充実させ開催をしました。その結果が高い就職率にもつながったと考えております。

## ●平成28年3月卒の就職活動について

保できるかわからない不安感からか、平成27年3月卒の採用数を増加させる傾向にありました。その結果、複数の企業から内定を得る学生も増加し、辞退者も続出したため追加募集を行う企業が例年以上に多く、大手企業からも急遽求人をお願いいただくことも多い状況です。現在就職活動中の学生については、卒業まで各学生に適した求人紹介や就職指導等の支援を続けていきますので、いつでもキャリア支援部までご相談にいらしてください。

採用数を大幅に増加したメガバンクが平成25年度の就職先上位を占め、例年通り金融業界への就職者が多かったこと、採用人数の少ないアナウンサー職等マスコミ業界にも複数名内定したことが平成25年度の就職実績の特徴でした。

## ●平成27年3月卒の内定状況について

平成27年3月卒の企業の採用姿勢は前年より更に積極的になっています。その理由として挙げられるのが、政府の要請等により平成28年3月卒から採用スケジュールが3年生の3月採用広報開始、8月選考開始となり企業は短期間での選考を強いられるため、内定者が確

すでにマスコミ等でも発表されていますが、(社)日本経済団体連合会(以下「経団連」)の「採用選考に関する企業の倫理憲章」で規定していた採用選考活動の開始時期を平成28年4月入社予定者以降から見直し、平成25年9月13日に「採用選考に関する指針」及び「手引き」を公表。更に平成26年9月16日に「企業等の協力を得て取り組むキャリア教育としての学内行事実施に関する申合せ」が公表されました。平成28年3月卒の就職活動のスケジュールは不透明でありつつも過密スケジュールになることは必至であるため、本学もその対応策として、例年と同様の時期から就職対策セミナーを開始しています。11月から2月にかけて業界研究セミナーを充実させるなど、就職活動が本格化する3月に向けて着々と準備をすすめています。ぜひ平成28年3月卒の学生の皆さんは学内で行われる就職対策セミナーや学内企業説明会に積極的に足を運んでください。

## 【平成25年度 主要産業別就職状況】

産業	企業名(カッコ内は人数、1名は省略)	人数	%
金融・保険業	三菱東京UFJ銀行(21)、三井住友銀行(10)、みずほフィナンシャルグループ(8)、あいおいニッセイ同和損害保険(5)、住友生命保険(4)、千葉銀行(3)、三井住友トラストホールディングス(3)、日本生命保険(2)、明治生命保険(2)、損害保険ジャパン(2)、信金中央金庫(2)、JALカード(2)、ユーシーカード(2)、アフラック(2)、ニューシニアフィナンシャル・コンсалティン(2)、第一生命保険、日本トラスティ・サービス信託銀行、日本マスタートラスト信託銀行、中央労働年金、東京海上日動火災保険、東日本銀行、リソムグループ、ゆうちょ銀行、京華銀行、足利銀行、三菱UFJ信託銀行、野村證券、大和証券、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、SMBC日興証券、らぼらん証券等	106	30.4%
卸売・小売業	双日(2)、セブンイレブンジャパン(2)、三菱商事、伊藤忠エアローション、JTB商事、三井物産ケミカル、協田通商、中島書店、リンクセオリージャパン、コーセー化粧品販売、東邦物産、椿本興業、そごう・西武、進島屋、トイモロランド、丸井グループ、三鈴、三越伊勢丹ホールディングス、図書館流通センター・加賀電子、NAARIテイリング、はせがわ、ヤーマン、JR東日本テールネット等	58	16.7%
サービス業	JTB(3)、パナソニック(3)、エイチ・アイ・エス(2)、ヤマシシステム開発(2)、高見(2)、SMBGインテリナショナルオペレーション(2)、SMBGセンターサービス(2)、ベンチャーバンク(2)、アニコウセル、近畿日本ツーリスト、東武トラベル、日本旅行、目黒種痘園、ユーラシア旅行社、赤城神社、鶴岡八幡宮、セコム、総合警備保障、マイナビ、テンブスタッフ、船橋コーポラルサービス、住友商事フィナンシャルマネジメント、奈良会計事務所、大井崎法律事務所、ひらびろ総合法律事務所、日本郵政等	56	16.1%
運輸業・郵便業	全日本空輸(6)、東日本旅客鉄道(5)、JALスカイ(4)、日本航空(3)、スカイビルサービス(3)、ANAエアポートサービス(2)、住商グローバルロジスティクス、シンガポール航空、ANA成田エアポートサービス、ヤマトロジスティクス、サントリーロジスティクス等	35	10.1%
情報通信業	ソフトバンク(3)、広島ホームテレビ、放送放送、LINE、第一法規、宝島社、インフォテック/朝日、クレーン、東京コンピュータサービス、富士通エフエス、三菱UFJインフォメーションテクノロジー、メック情報開発等	27	7.8%
製造業	Meiji Seikaファルマ、三菱電機、協和発酵キリン、クラランス、組物産、なとりファミリー、岩瀬食品、井上香料製造所、アンファー、ユニオンツール、大塚製薬、八神製作所等	22	6.3%
教育・学習支援業	三幸グループ(3)、学習院(2)、千葉県教育委員会、山梨県教育委員会、小林学園本荘東海神学校、個別指導塾スタンダード等	12	3.4%
医療・福祉	東京社会保険協会、大宮共立病院、柳橋中央総合病院、帝京大学医学部附属調剤病院、東京慈恵予医学協会等	9	2.6%
不動産業・物品賃貸業	木下工務店、東武ビルマネジメント、ウスイホーム、積和不動産、東京都同発、興銀リース	6	1.7%
宿泊業・飲食サービス業	日本ホテル、プリンスホテル、万平ホテル等	6	1.7%
建設業	積水ハウス、浦池組、船化成ホームズ、新日本建設、久保工	5	1.4%
公務	警視庁、太田市役所、沼田市役所	3	0.9%
複合サービス業	全日本海員組合、埼玉信用農業協同組合連合会	2	0.6%
電気・ガス・水道	京葉瓦斯	1	0.3%
合計		348	100%

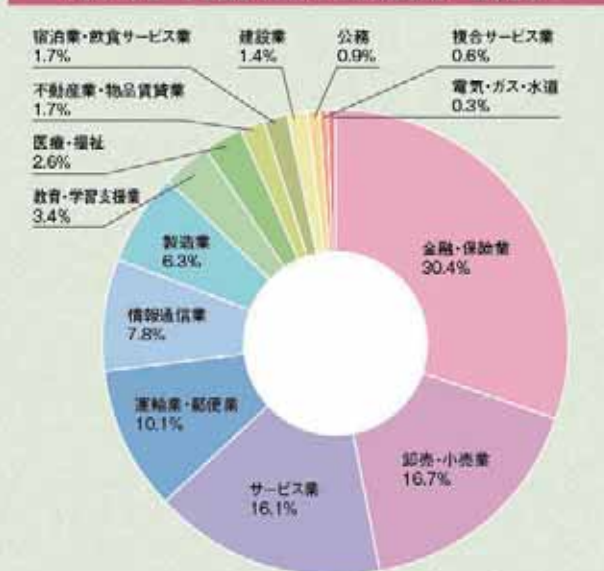
## 【就職先上位10社】

企業・団体名	人数
1 (株)三菱東京UFJ銀行	21
2 (株)三井住友銀行	10
3 (株)みずほフィナンシャルグループ	8
4 全日本空輸(株)	6
5 あいおいニッセイ同和損害保険(株)	5
6 東日本旅客鉄道(株)	5
7 住友生命保険(相)	4
8 (株)JALスカイ	4
9 (株)千葉銀行	3
10 日本航空(株)	3

平成25年度(2013年度)就職状況	
(2013年9月-2014年3月卒業生)	
卒業決定者	419
就職希望者	356
就職希望率	85.0%
就職内定者	348
就職内定率	97.8%

平成26年3月31日現在

## 平成25年度 学習院女子大学業種別就職状況—主な企業—





# 学習院父母会の近況報告



## 学習院女子大学父母会会員の皆様へ

学習院父母会会長 小堀 正晴

ご父母の皆様には本会の運営につきましてご理解賜り感謝いたしております。学習院父母会は、学習院全体の経営、教育に参画し支援する組織であり、その目的に従ってさまざまな活動をしていきます。これは他の学校法人には見られない特徴です。本会は、園児、児童、生徒、学生が学習院において充実した学校生活を送れるように多岐にわたって支援することを第一の役割であると考えております。それは、学習院で学ぶ子ども達が社会人となり、明日の日本、世界の「翼を担う人材」として成長することを願っているからです。本会は皆様から頂戴する年会費で運営されております。皆様とともに「ご子女のご成長、ご活躍をお祈り申し上げます」。

## 学習院父母会事務局より

学習院女子大学のご父母（保証人）の皆様には常日頃より、本院の学校運営にご理解と多大なるご協力をいただきまして、平成26年度の学習院父母会の運営も滞ることなく進んでおります。

学習院父母会の事業運営報告等につきまして、yawaragi学習院女子大学だよりに掲載いただけますことを感謝いたしております。

## 父母会の主要事業

(1) 父母会奨学金制度（平成13年度創設）  
学習院に在学する学生、生徒等で父母

保証人の死亡などに起因し、家計が激変したことにより、学費の支弁が困難と認められる勉学熱心な者に対し、選考のうえ、年15名以内、年額授業料・維持費（高等科以下の名称）・施設設備費（大学及び女子大学の名称）相当額（100万円限度）を給付するものです。平成26年度は6名（大学5名、高等科1名）の学生、生徒等へ給付いたしました。

## (2) 父母会課外活動等助成金制度（平成13年度創設）

現代は単に学問だけでなく、スポーツ、文化などを含めた広く大きな「人格形成」が教育の場に求められています。そこで父母会は、大学、女子大学、男女中・高等科及び初等科の運動部・文化部等の課外活動に対し積極的に助成しております。・各部各クラブの備品用具等へ助成する（一般助成金について、平成26年度は各学校合計80件でした。）、  
・父母会課外活動等優秀賞受賞について、平成25年度は各校合わせまして、団体14件、個人53件でした。

## 父母会の近況報告

(1) 地方における「地震災害による被災者父母保証人」へのお見舞い等

新潟県中越地震（平成16年）、福岡県西方沖地震（平成17年）、新潟県中越沖地震（平成19年）、岩手・宮城内陸地震（平成20年）、それぞれ、お見舞金を贈呈しました。平成23年3月11日、東北関東地域に発生した甚大な災害に当たって「学習院東日本大震災義援金」へ100万円を募金しました。

また、東日本大震災罹災学生（大学及び女子大学に申請・認定の学生）に対して生活支援金（平成23年度の時限措置）を支給しました。

## (2) 「オール学習院の集い」への協力

恒例の「オール学習院の集い」に対して、法人へ寄付をすると共に、常任幹事の方々には当日の運営にご協力いただき、「共催」の役目を務めております。

## (3) 大型物件の寄贈及び寄付

・百周年記念会館小講堂の椅子の老朽化に伴い200脚寄贈（平成20年）  
・学習院女子大学へグランドピアノ（スタインウェイC227）の寄贈（平成21年）  
・幼稚園へAED及び保健室へAED訓練用入形の寄贈（平成21年）  
・学習院女子中・高等科テニス・バレーコート人工芝化改修工事費の寄付（平成22年）  
・校外施設（沼津游泳場・妙高高原）地デジ対応テレビ等買い替えの寄付（平成22年）  
・幼稚園へステンレス製オリジナル2連登り棒を寄贈（平成23年）  
・各学校（大学・幼稚園）へ災害時整備計画に基づく備蓄品等を寄贈（平成24年）  
（女子大学用備蓄品として、アルファ米2100食及びサバイバルパン2016缶を寄贈）  
・学習院大学へ西5号館1階「学生ホール」内設置の椅子188席を寄贈（平成26年）

## おわりに

以上のように学習院父母会は直接あるいは間接に学習院の経営、教育に参画、支援をしている組織です。皆様と共に、これからも学習院を支え、より良い学校にする努力を続けて参りたいと存じます。

父母会本部事務局は目白キャンパスの学習院創立百周年記念会館2階にごさいます。ご用の節は「遠慮なく」ご連絡下さい。

開室時間：月～金 9時～17時

TEL&FAX: 03-33988132 26



第一回

## ホーム カミングデー



十月十八日(土)、十九日(日)午後一時半より女子大学235教室において、ホームカミングデーを開催いたしました。

一日目は、石澤靖治学長、水井和子前学長をお迎えしての開会式に続いて、在校生の東日本大震災支援活動グループ「つながる わ」キャンベーン活動の報告、在学留学生二人による「母国の紹介」、大学院留学生の二人をお招きして、徳田和夫先生によるインタビュー形式での座談会が行われました。

草上会の新、旧役員はじめ幹事の方などで会場は満席で、在校生、留学生の方たちの若さあふれる発表に引き込まれ、時の経つのが惜しまれるひと時でした。

二日目は、「私と学習院—その後—そして今—」と題しまして、36回卒業生 紅絹さんと30回卒業生 橋岡協美さんの講演会を行いました。櫻井さんは学習院を卒業されてから渡仏されジュエリーデザイナーとしてパリサンジェルマンデブレストにお店を開かれ現在も日本とフランスを行き来していらっしやいます。また、橋岡さんは、商事会社、日本航空勤務の後、能楽師の妻となられ、現在は佐倉市議会議員として地元にかりと根を下ろした生活の様子を話されました。両日とも茶道部卒業生による「点て出し」のおもてなしがあり心なむむひと時でした。

(草上会会長 塚本優子)

## 合同茶話会

十二月十六日(日) 二時から互敬会館二階ラウンジにて 三四回生から四〇回生までの七期に亘つての合同茶話会を開きました。

担当回生に幹事になっていただき、草上会役員も一緒に準備いたしました。

当初心配しておりました出席人数も70名を超えるまでになり、セルフサービスで飲み物、ケーキなどを取っていただきました。

草上会の最近の様子、女子大学についての紹介のあと、歓談、アピールタイムで各テーブルから選ばれた方のスピーチと続きすっきり打ち解けた雰囲気になりました。

日曜日の午後のひと時でした。がこれを機会にクラス会が開かれ、草上会への関心が高まるとともに高まってくださればこんな嬉しいことはございません。



すぐにうちとけて和やかな雰囲気になりました



受付も大勢の方で賑わいました

# 草上会 平成26年度の 主な活動

学習院目白キャンパス

4月13日

## ● ヨーヨーつり・花見茶屋

毎年「ヨーヨーつり」はお子様方に大人気です。「花見茶屋」は桜の花の下、温かいお茶とおまんじゅうでおもてなしいたしました。  
・平成27年度は4月12日に開催予定です。

## オール学習院の集い

5月22日

## ● 多摩御陵参拝と八王子車人形の鑑賞会

木々の緑も美しい5月の22日、43名が参加してバスツアーが催されました。多摩御陵に参拝後、国の選択無形文化財車人形を鑑賞いたしました。天候にも恵まれ、参加の皆様から大変ご好評をいただきました。



## バスツアー

ホテルオークラ 東京

6月15日

第56回総会・懇親会が会員約190名参加のもと開催されました。総会に続き講演会、懇親会に移り、和やかなうちに閉会となりました。

## ● 講演「池坊はなぜ550年も続いてきたのか」

講師 池坊 由紀氏(華道家元池坊次期家元)

先人達のご苦労と、花の美しさばかりでなくその背景にあるものを感じ取り、継承してきたからである、というお話をいただきました。

・平成27年度は講師に今田美奈子氏(今田美奈子食卓芸術サロン主宰)をお迎えし、6月14日に開催予定です。

## 総会・懇親会

互敬会館3階 草上会フロア

10月18、19日

## ● バザー・作品展

バザーは開場前に行列ができるほど、学内外の方々にもご好評をいただいております。

売上の一部は「女子大つながる わ」活動に寄付のほか、新宿区社会福祉協議会にも車いすを寄贈いたしました。

作品展には、今年も会員の多彩な作品が多数出品されました。どれも大変な力作ばかりでその完成度の高さに目をみはりました。



## 和祭参加

互敬会館2階ラウンジ

11月16日

34回生~40回生72名が参加し、開催されました。詳細はP34をご覧ください。

## 合同茶話会

毎月

第2水曜日

新宿区社会福祉協議会に寄贈する布巾作りの他、バザー出品用品など、楽しみながら作っています。

## ボランティア

●詳しくはホームページをご覧ください。 草上会アドレス <http://gakushuin-ouyukai-branch.jp/soujoukai/>

平成26年度 入試の概況

学科	入試の種類			
日本文化学科	一般入試	志願者	666	
		合格者	253	
		入学者	107	
	その他特別入試等	志願者	62	
		合格者	56	
		入学者	55	
	合計	志願者	728	
		合格者	309	
		入学者	162	
国際コミュニケーション学科	一般入試	志願者	1,240	
		合格者	391	
		入学者	141	
	その他特別入試等	志願者	103	
		合格者	83	
		入学者	81	
	合計	志願者	1,343	
		合格者	474	
		入学者	222	
英語コミュニケーション学科	一般入試	志願者	288	
		合格者	143	
		入学者	39	
	その他特別入試等	志願者	16	
		合格者	15	
		入学者	8	
	合計	志願者	304	
		合格者	158	
		入学者	47	
学部合計	志願者	2,375		
	合格者	941		
	入学者	431		

(平成26年4月1日現在)

平成27年度 入試途中経過

入試区分	学 科	募集 人数	志願者	受験者	合格者	倍率 受/合
一般入試A	日本文化	60	444	425	184	2.3
	国際コミュニケーション	70	726	704	336	2.1
	英語コミュニケーション	30	175	172	108	1.6
一般入試B	日本文化	20	196	165	29	-
	国際コミュニケーション	30	215	176	35	-
	英語コミュニケーション	10	96	79	12	-
海外帰国生徒	日本文化	若干名	9	5	4	1.3
	国際コミュニケーション	若干名	10	5	5	1.0
外国人留学生	日本文化	10	6	6	3	2.0
	国際コミュニケーション	10	14	13	10	1.3
社会人	日本文化	若干名	0	0	0	-
	国際コミュニケーション	若干名	1	1	1	1.0
推薦A	日本文化	40	58	58	58	1.0
	国際コミュニケーション	50	49	49	49	1.0
	英語コミュニケーション	5	5	5	5	1.0
推薦B	日本文化	10	20	20	13	1.5
	国際コミュニケーション	10	20	20	10	2.0
AO	英語コミュニケーション	若干名	10	10	10	1.0
女子高等科推薦進学	日本文化	若干名	3	3	3	1.0
	国際コミュニケーション	若干名	1	1	1	1.0
	英語コミュニケーション	若干名	0	0	0	-
特別入試	日本文化	60	96	92	81	1.1
	国際コミュニケーション	70	95	89	76	1.2
	英語コミュニケーション	5	15	15	15	1.0
総合計	日本文化	140	736	682	294	-
	国際コミュニケーション	170	1,036	969	447	-
	英語コミュニケーション	45	286	266	135	-
	合計	355	2,058	1,917	876	-

※注：一般入試A方式は補欠繰上合格者を含み、B方式は正規合格者のみ  
推薦指定日本語学校出身者を含む（平成27年3月1日現在）

学習院女子大学 学生数 一覧

学 科	日本文化 学科	国際 コミュニケーション 学科	英語 コミュニケーション 学科	合 計	大学院修士課程
1年	162	223	47	432	7
2年	154	174	46	374	10
3年	168	185	49	402	-
4年	173	220	56	449	-
合計	657	802	198	1,657	17

(平成26年12月1日現在)

平成27年度 女子大学奨学金一覧表

※各奨学金の詳細は学生部窓口にお問合わせください。

制度名	金額(円)	募集時期	貸・給別	備考		
安倍能成記念教育基金奨学金	大学院学生 450,000 学部学生 450,000	募集しない・推薦制	給付	採用1ヶ年 2年生以上対象		
学習院女子大学学業優秀者給付奨学金	大学院学生 300,000 学部学生 150,000	募集しない・推薦制	給付	採用1ヶ年 2年生以上対象		
学習院女子大学学費支援給付奨学金	学部学生 第2期授業料相当額	4月中旬	給付	採用1ヶ年		
学習院女子大学奨学金	大学院・学部学生 授業料・施設設備費等相当額以内	4月中旬	貸与	採用1ヶ年 2年生以上対象		
学習院女子大学教育ローン金利助成奨学金	大学院・学部学生 在学中利子分給付	揭示による11月下旬~12月中旬	給付	採用1ヶ年 毎年申請		
学習院女子大学外国人留学生奨学金 及び奨励金	奨学金 200,000	5月中旬	給付	毎年申請		
	奨励金 300,000	募集しない・推薦制		毎年推薦制		
学習院女子大学海外留学奨学金	500,000以内	揭示による	給付			
学習院女子大学協定留学生奨学金	500,000以内	募集しない・推薦制	給付	協定留学生		
学習院女子大学海外短期語学研修奨学金	100,000以内	揭示による	給付			
学習院女子大学海外ボランティア活動奨励金	100,000以内	揭示による	給付			
学習院父母会奨学金	学部学生 授業料・施設設備費相当額(100万円を上回る)	揭示による 11月中旬~1月上旬	給付	採用1ヶ年 1回限り		
日本学生支援機構	学部学生	第1種(無利子)	自宅外通学 月30,000または64,000 自宅通学 月30,000または54,000	4月中旬	貸与	卒業月まで貸与
		第2種(有利子)	希望により貸与月額3万、5万、8万、10万、12万のいずれかを選択			
	大学院生	第1種(無利子)	月50,000または88,000	4月中旬	貸与	修了月まで貸与
		第2種(有利子)	希望により貸与月額5万、8万、10万、13万、15万のいずれかを選択			
日本学生支援機構 私費外国人留学生学習奨励費	大学院学生 月65,000 学部学生 月48,000	募集しない・推薦制	給付	採用1ヶ年 追加推薦あり		
その他公私機関による奨学金制度		その都度揭示を見てください。				

平成27年度 学年暦

平成26年4月~平成27年3月

<p><b>4</b> April</p> <p>春季休業 1(水)~5(日)                      新入生ガイダンス 1(水)~4(土)、6(月)                      健康診断 1(水)~2(木)                      入学式 4(土)                      雅祭 7(火)                      春学期授業開始 8(水)</p>	<p><b>5</b> May</p> <p>臨時休講 4/30(木)~2(土)                      開学記念日(開講日) 15(金)</p>	<p><b>6</b> June</p>
<p><b>7</b> July</p> <p>休日開講日 20(月)                      春学期授業終了 22(水)                      補講期間 23(木)~24(金)                      春学期末試験 25(土)~31(金)</p>	<p><b>8</b> August</p> <p>夏季休業 1(土)~8/20(日)                      集中講義期間 3(月)~7(金)、10(月)</p>	<p><b>9</b> September</p> <p>春学期追試験 9(水)~10(木)                      秋学期ガイダンス 17(木)~19(土)                      秋学期授業開始 21(月)                      休日開講日 21(月)</p>
<p><b>10</b> October</p> <p>和祭準備(休講) 9(金)                      和祭(休講) 10(土)~11(日)                      和祭片付け(休講) 12(月)                      開院記念日(開講日) 17(土)</p>	<p><b>11</b> November</p> <p>休日開講日 23(月)</p>	<p><b>12</b> December</p> <p>振替休講日 24(木)                      冬季休業 25(金)~1/7(木)</p>
<p><b>1</b> January</p> <p>授業開始 8(金)                      秋学期授業終了 20(水)                      補講期間 21(木)~22(金)                      秋学期末試験 23(土)~30(土)</p>	<p><b>2</b> February</p> <p>学年末休講 1(月)~3/24(木)                      秋学期追試験 12(金)~13(土)</p>	<p><b>3</b> March</p> <p>卒業式 19(土)                      春季休業 25(金)~31(木)                      在学生ガイダンス 24(木)~25(金)                      28(月)~29(火)</p>

## 次期学長に石澤 靖治現学長再任

石澤 靖治女子大学長の任期満了(平成27年3月31日)に伴う学長選挙が、平成26年11月6日(木)に実施され、次期学長に石澤 靖治氏が再任されました。任期は、平成27年4月1日から平成29年3月31日までの2年間です。

いしざわ やすはる  
学習院女子大学長 石澤 靖治  
昭和32年5月15日生(57歳)

学歴	昭和56年 3月 立教大学社会学部社会学科卒業 平成 2年 6月 ハーバード大学ケネディ行政大学院修了(MPA) 平成17年 2月 博士(政治学、明治大学)
職歴	昭和56年 4月 ダイヤモンド社「週刊ダイヤモンド」記者 平成 2年10月 ワシントンポスト権東総局記者 平成 7年 5月 ニュースウィーク日本版副編集長 平成12年 4月 学習院女子大学国際文化交流学部助教 平成14年 4月 学習院女子大学国際文化交流学部教授(現在に至る) 平成23年 4月 学習院女子大学長(現在に至る)

Topics  
1

Topics  
2

## 平成27年4月より 本学ホームページがリニューアル!

見やすさとコンテンツの充実を目指し、  
PCサイトとスマホサイトのデザイン・内容を一新します。

**URL** <http://www.gwc.gakushuin.ac.jp/> (URLは変更ありません)

Topics

Topics  
4

## 「第29回オール学習院の集い」 開催のお知らせ

本院では、毎年4月に、学習院  
父母会、学習院校友会及び常磐  
会のご協力を得て「オール学習院  
の集い」を開催しています。

女子大学の学生団体も参加し  
ますので、皆さんのお越しをお待ち  
しております。

なお、開会式及び大合同演奏  
会入場には、入場券が必要です。  
一般来場者席の入場券は、当日  
配付します。詳細は、平成27年3  
月中旬頃より学校法人学習院の  
ホームページに掲載いたします。

**日時** 平成27年4月12日(日)  
午前9時30分～午後4時(雨天決行)

**会場** 学習院目白キャンパス(豊島区目白1-5-1)

**備考** 詳しくは事務室の窓口で配付するパンフレット  
又はホームページ  
(<http://www.gakushuin.ac.jp/ad/somu/all/>)  
をご覧ください。

## 女子大学連盟総会が 開催されました

女子大学連盟総会は、全国の国立・私立  
各大学の学長や運営を担う役職者が一堂に  
会し、女子教育という共通理念に基づき意見  
交換や情報共有を行う会合です。

平成26年10月11日(土)、今年度の委員  
長校である本学を会場として、26校から51人  
の方をお迎えし、有意義な意見交換がなされ  
ました。また、学生によるキャンパスツアーが行  
われ、他大学の方に本学を知っていただく良  
い機会となりました。

Topics  
3



## 【生涯学習センター】秋期特別講座「更級日記と源氏物語」

Topics  
5

平成26年12月6日(土)、生涯学習センター秋期特別講座「更級日記と源氏物語」が、学習院女子大学および草上会との共催で開かれました。

学習院女子大学国際文化交流学部日本文化学科の伊藤守幸教授が講師を務め、約60名の方が受講しました。



講座の様子

伊藤守幸学習院女子大学教授による解説

伊藤教授は平安文学・比較日本文学研究を専門とする研究者で、「更級日記」に関する論文を数多く執筆しています。

「更級日記」は、平安時代中期に菅原孝標女(すがわらのたかすえ)のむすめ(1008-没年不詳)が書いた作品です。

同時期に成立した紫式部の「源氏物語」への強い憧れを基軸に、10代から50代までの孝標女自身の人生が描かれており、平安女流日記文学の代表作のひとつに数えられています。

講座ではまず、菅原道真(845-903)を祖とする孝標女



講座の後半は、更級日記の主人公の少女(孝標女)が源氏物語を耽読する場面前後の記述を精読し、継母や乳母との別れなど人生のどん底とも思える時期に源氏と出会い、次第に物語に心を奪われていく過程を丁寧にたどりました。

また、更級日記は紀行文としても非常に優れた情景描写が多く、伊藤教授は「映画化したらとても美しい作品になる」と話しました。

こうした古典作品には当時の日本人の美意識や世界観などが表現されており、改めて読み直すことで日本文化の原点を探ることができます。

受講生の皆さんもプリントされた更級日記のテキストを読み、その世界観を堪能しているようでした。

伊藤教授は10年近くにわたり、更級日記英訳作成のた

の家系の説明や、「更級日記」がどのように現代に伝わったかについての解説がありました。

孝標女による原本は現存しておらず、藤原定家(1162-1241)による「更級日記」の写本(通称「御物本」)があり、この御物本がいつしか順序が誤ってとじられ、江戸時代に多く作られた写本もすべてが「錯簡」であったことが、大正13年、佐々木信綱と玉井幸助の調査で判明しました。

錯簡を修正し、「更級日記」が正しい順序で読まれるようになったのは昭和に入ってからとのこと。

めの共同研究を重ねてきましたが、その研究成果としてこの夏、更級日記の翻訳本「The Sarashina diary: a woman's life in eleventh-century Japan」(Columbia University Press)を出版しました。

更級日記は1971年にイギリスの翻訳家アイヴァン・モーリスにより訳されて以降、海外でも多くの方に読まれてきましたが、今回刊行された「The Sarashina diary」は伊



藤教授の研究をもとに、日本の学界の研究水準を反映した、最新の更級日記翻訳本となっています。

伊藤教授の翻訳本を  
閲覧する受講生

学習院生涯学習センターでは、多くの方々の「学びたい意欲」に応えるべく、さまざまなジャンルの講座を開講しています。年齢・性別など問わず、どなたでもご受講いただけます。開講科目に関する詳しい情報や申込方法などについては、こちらの生涯学習センターホームページをご覧ください。  
<http://open.gakushuin.ac.jp/>

お問い合わせ

学習院生涯学習センター  
TEL: 03-5992-1040





# 学習院女子大学 Gakushuin Women's College

学習院女子大学 事務統括部  
〒162-8650 東京都新宿区戸山3-20-1 Tel 03(3203)1906 Fax 03(3203)8373  
ホームページ <http://www.gwc.gakushuin.ac.jp/>

